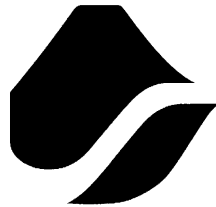


令和 8 年度

食品栄養科学部履修要項



静岡県立大学
UNIVERSITY OF SHIZUOKA

目 次

講義室・実習室配置図

食品栄養科学部の理念・目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー … 1

履修案内

1 はじめに	5	8 進級・卒業・留年	10
2 単位制	5	9 資格及び免許状など	11
3 授業	5	10 学生相談等	13
4 授業科目	6	11 学部基礎科目（英語）評価表について…	16
5 履修登録	7	12 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムについて	17
6 試験	9	13 JABEEについて	17
7 学修の評価	10	14 全学共通科目の履修について …	17

授業科目一覧表

1 全学共通科目	19
2 食品生命科学科（令和8年度入学生用）	22
3 栄養生命科学科（令和8年度入学生用）	23
4 環境生命科学科（令和8年度入学生用）	24
管理栄養士国家試験受験資格の取得に必要な授業科目等 …	25
栄養士免許の取得に必要な授業科目等 …	26
栄養教諭免許の取得に必要な授業科目等 …	27
理科教諭免許の取得に必要な授業科目等 …	28

教育課程年次配当図

食品生命科学科 令和8年度入学生用	30
栄養生命科学科 令和8年度入学生用	31
環境生命科学科 令和8年度入学生用	32
栄養教諭 令和8年度以降入学生用	33
理科教諭 令和8年度以降入学生用	34

カリキュラムツリー

食品生命科学科 令和8年度入学生用	36
栄養生命科学科 令和8年度入学生用	37
環境生命科学科 令和8年度入学生用	38

JABEE の学習・教育目標と各科目との関係 … 39

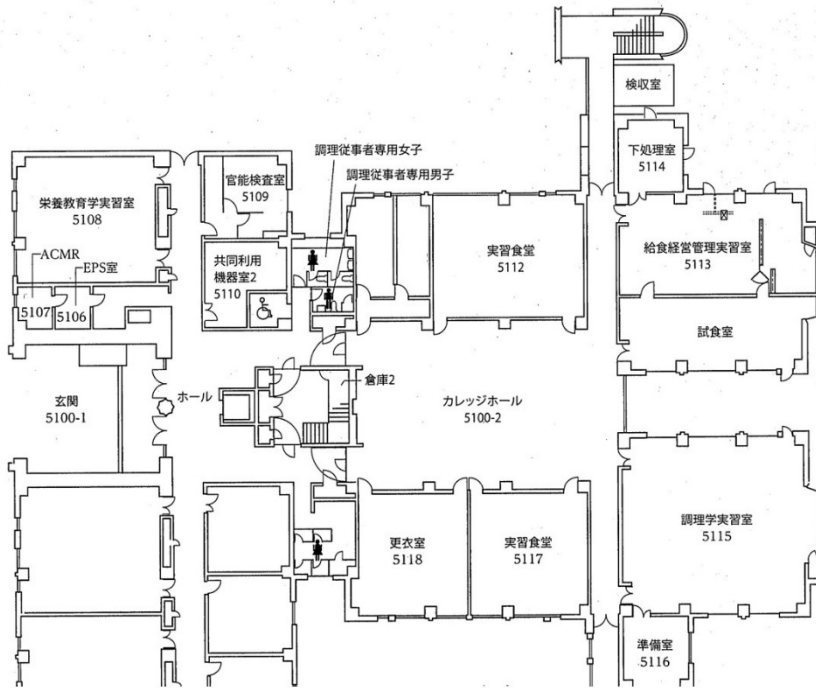
静岡県立大学食品栄養科学部履修細則 … 42

※履修要項は再発行されません。大切に保管してください。

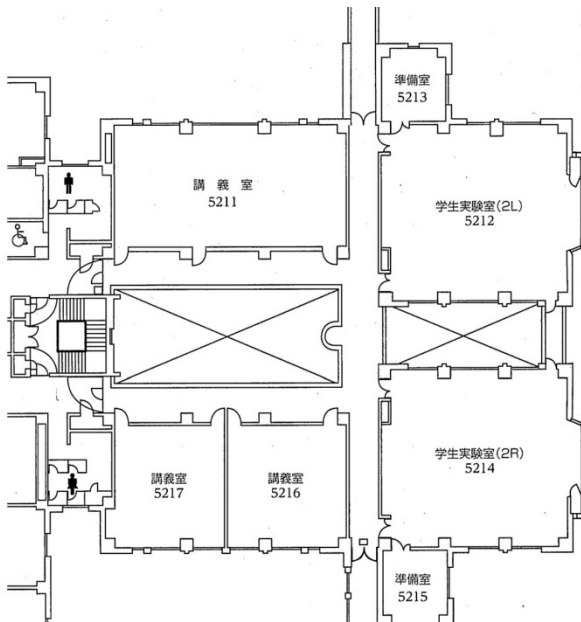
食品栄養科学部棟／食品栄養科学部 2 号棟 講義室・実習室配置図

食品栄養科学部棟

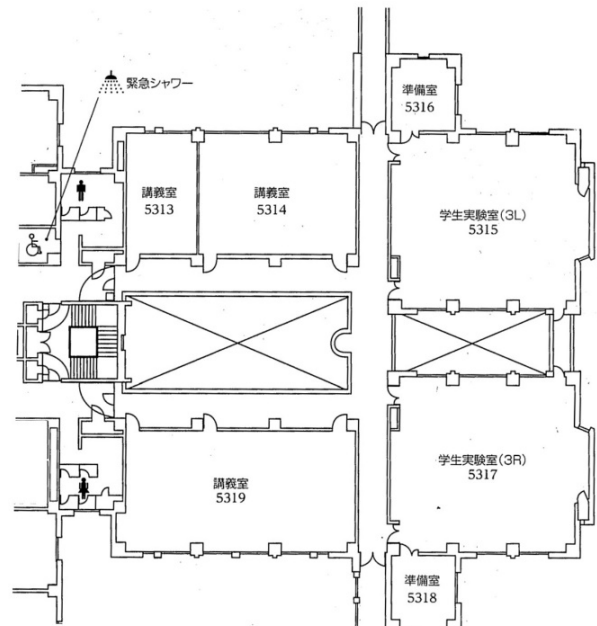
① 1階



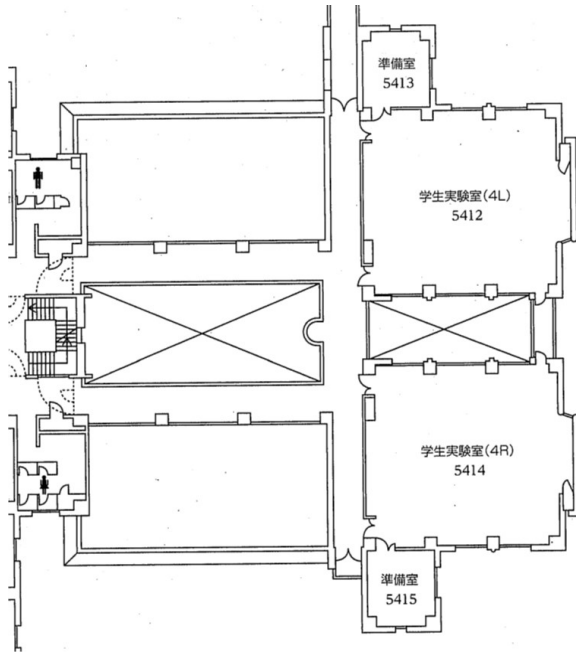
② 2階



③ 3階

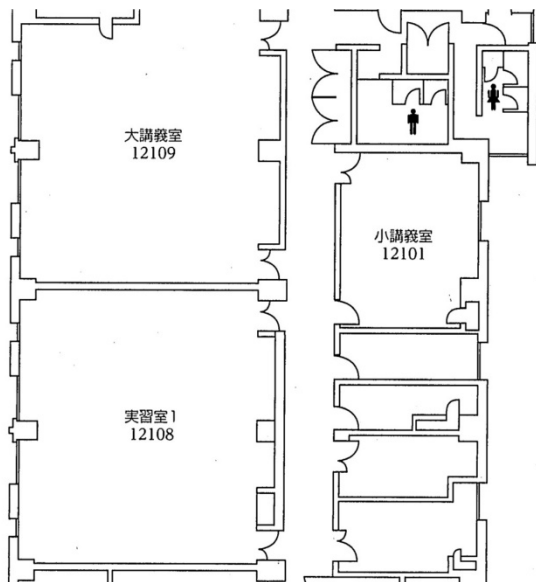


④ 4階

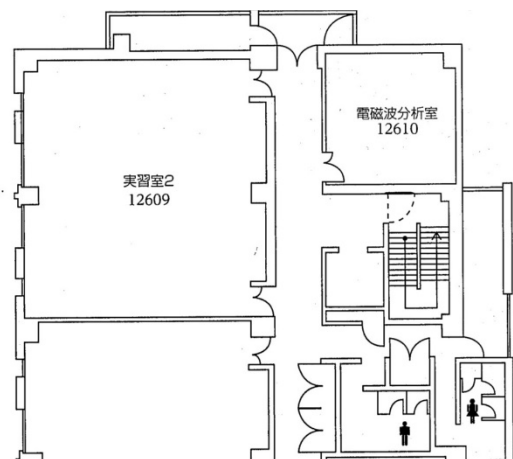


食品栄養科学部 2号棟

⑤ 1階



⑥ 6階



食品栄養科学部

理念・目的

食べ物という物質面の学問として発展してきた食品科学、生体内に入った食べ物の代謝や生体機能との関係を扱う栄養科学、並びに食べ物の生産とその安全性に深く関わる環境科学を密接に関連させながら、「食と健康」に関する地域社会の課題からグローバルな問題までの解決に貢献でき、研究意欲を備えた専門技術者や管理栄養士の育成を目指します。

ディプロマ・ポリシー

食品栄養科学部は、生命科学の体系的な教育を基盤として、国際的に通用するコミュニケーション能力を備え、食と環境と健康に関する地域社会の課題からグローバルな問題までの解決に貢献できる人材を育成することを目的としています。これを達成するために設定された全学共通科目、学部基礎科目および専門教育科目を履修し、所定の単位を修得した者は、卒業判定時に各学科のディプロマ・ポリシー達成度を確認の上、卒業が認定されます。

食品生命科学科

食品生命科学科では、食品科学に関係する学問を体系的に修得し、食品分野を先端的に担う技術者を育成することを目的としています。以下に示す力を身に付けるために編成された教育課程において学修し、所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は、学士（食品栄養科学）の学位が授与されます。

1. 幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる食品科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
2. 食品科学に関する広範な知識と関連技術に基づき、食品に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。
3. 食品科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
4. 食品科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
5. 豊かな人間性と食の安全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
6. 食品技術者としての社会的な役割と責任を理解し、食品関連産業の発展に貢献することができる。

栄養生命科学科

栄養生命科学科では、食を通して健康の増進と保健・医療へ貢献し、人間の健康と長寿を支える栄養科学の専門家および管理栄養士を育成することを目的としています。以下に示す力を身につけるために編成された教育課程において学修し、所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は、学士（食品栄養科学）の学位が授与されます。

1. 幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる栄養科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
2. 食と健康に関する広範な知識と関連技術を駆使して、栄養に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を有している。
3. 栄養科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
4. 栄養科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
5. 創造性あふれる豊かな人間性と栄養科学の専門家としての倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
6. 管理栄養士として人間の健康と長寿を支える栄養に関わる諸問題の解決に貢献することができる。

環境生命科学科

環境生命科学科では、食と健康に関わる環境分野の専門的技術と見識を有し、地域社会の課題からグローバルな問題までの解決に貢献できる人材を育成することを目的としています。以下に示す力を身に付けるために編成された教育課程において学修し、所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者は、学士（食品栄養科学）の学位が授与されます。

1. 幅広い教養を身につけた上で、食と健康に関わる環境科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
2. 食と健康に関わる環境分野の知識と技術に基づき、環境に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。
3. 環境科学と生命科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
4. 環境に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
5. 豊かな人間性と環境保全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
6. 環境計量と環境・生体影響評価に関する知識や技術を修得し、環境保全や食の生産に貢献することができる。

カリキュラム・ポリシー

食品栄養科学部は、生命科学の体系的な教育を基盤として、国際的に通用するコミュニケーション能力を備え、食と環境と健康に関する地域社会の課題からグローバルな問題までの解決に貢献できる人材を育成することを目的とし、食品生命科学科、栄養生命科学科、環境生命科学科を設置しています。各学科ではこの目的に沿ったディプロマ・ポリシーに基づいて教育課程を編成しています。

食品生命科学科

食品生命科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目および専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次に示すカリキュラムを編成しています。なお、本カリキュラムは日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定プログラムとなっており、修了生は技術士（国家資格）の一次試験が免除されます。

1. 全学共通科目の履修により幅広い教養を身に付けた上で、「化学」「物理学」「生物学」「情報科学」などの学部基礎科目を履修し、食と健康に関わる食品科学の理解に必要な基礎知識と基礎技術を培う。
2. 専門教育科目で食と健康に関わる科目を履修し、食品栄養科学と生命科学に関する広範かつ専門的知識と方法論を身に付ける。
3. 実験・実習を履修し、広範な知識と関連技術を駆使して問題を解決できる能力を養うとともに、卒業研究などの科目を履修し、食品科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を養う。
4. 英語科目の履修により、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。
5. 専門科目として「技術者倫理」などの科目を履修し、食品技術の社会に対する効果を地球規模で理解するとともに、食品技術者の社会に対する責任への理解・倫理観を醸成する。
6. 実習科目や卒業研究などの科目の履修を進める過程で、食品技術者として計画的に仕事を遂行できる能力を養い、協調性や指導力を育成する。
7. 高等学校教諭一種免許状（理科）、食品衛生監視員、食品衛生管理者など、各種の資格等の取得に必要な科目を設置している。

1～2年次には、化学、物理学、生物学、英語などの学部基礎科目を重点的に学びます。2～3年次には、食品化学、食品工学、有機化学、微生物学、食品衛生学などの専門科目が実験や実習とともに配置されています。4年次には、研究室に配属されて卒業研究を行い、卒業論文にまとめて発表します。

学修成果の評価は、各科目の到達目標に対応して行います。

栄養生命科学科

栄養生命科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目および専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次の通りカリキュラムを編成しています。

1. 全学共通科目の履修により幅広い教養を身に付けた上で、「化学」「化学実験」「生物学」「生物学実験」などの学部基礎科目を履修し、食と健康に関わる栄養科学の理解に必要な基礎知識と基礎技術を培う。
2. 専門教育科目として、栄養科学に関する専門基礎分野と専門分野の科目をそれぞれ体系的に設置し、高度栄養専門職に必要な食と健康に関する広範かつ専門的知識と方法論を身につける。
3. 校内での実験実習、校外実習、臨地実習、総合演習を配置し、管理栄養士の役割と責務を自覚するのみならず、管理栄養士として必要な知識や倫理観、実践的な能力および食と健康に関する諸問題の発見、分析、解決へとつなげる力を醸成する。
4. 栄養に係る教育や教職に関する科目を配置し、栄養教諭の職務である「食に関する指導」と「学校給食の管理」の基礎力と応用力を身につけ、高度なコミュニケーション能力や豊かな人間性と倫理観を備え、多面的な問題解決能力と実力を養う。
5. 学部共通科目の英語科目および栄養に関する科学英語科目を配置し、英語による情報収集や基礎的なコミュニケーションができる能力を育成する。

6. 身につけた知識やスキルを統合し、卒業研究に取り組み、栄養科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用する能力を身につける。さらに、卒業論文の作成、発表を通じて論理的な記述・発表・質疑応答・討論ができる能力を養う。
7. 栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、栄養教諭一種免許状、食品衛生監視員、食品衛生管理者など、各種の資格等の取得に必要な科目を設置している。

1～2年次には、化学、物理学、生物学、英語などの学部基礎科目を重点的に学びます。1年次後期～3年次には、生化学、生理学、食品化学、調理化学、基礎および応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論などの専門科目が実験や実習とともに配置されています。4年次には、研究室に配属されて卒業研究を行い、卒業論文にまとめて発表します。

学修成果の評価は、各科目の到達目標に対応して行います。

環境生命科学科

環境生命科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目および専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次に示すカリキュラムを編成しています。

1. 全学共通科目の履修により幅広い教養を身につけた上で、「化学」「化学実験」「生物学」「生物学実験」などの学部基礎科目を履修し、食と健康に関わる環境科学の理解に必要な基礎知識と基礎技術を培う。
2. 専門教育科目で食と健康に関わる科目を履修し、さらにフィールドワークや環境生命科学実験の履修を通して、環境分野における諸問題を解決へとつなげる力を養う。
3. 環境科学と生命科学に関する専門教育科目を履修した上で卒業研究に取り組み、研究する力を身に付ける。
4. 学部基礎科目および専門教育科目の英語に関する科目の履修を通して、環境の分野で英語による情報収集や基礎的なコミュニケーションができる能力を育成する。
5. 環境科学や技術者の倫理に関わる専門教育科目を履修し、環境分野の専門家として社会に対する責任についての高い見識を養う。
6. 環境計量、生態・生体影響、食の生産および環境保全に関する科目を総合的に学び、環境分野の専門家として論理的思考力と問題解決能力を養う。
7. 高等学校教諭一種免許状（理科）、食品衛生監視員、食品衛生管理者など、各種の資格等の取得に必要な科目を設置している。
8. 環境計量士、公害防止管理者、放射線取扱主任者、気象予報士などの資格に関して、関連する知識を習得することができる科目を設置している。

1年次には、教養科目と学部基礎科目、2年次には、フィールドワークや食と人間の健康に関わる専門教育科目を段階的に学びます。3年次には、多様な実習や専門科目を履修して、社会に対する責任を理解し環境分野の専門家として活躍できる能力を養います。4年次には、これまでに培った知識や技能を生かして、卒業論文作成を行うことで専門性を高め、セミナーや発表会などを通してプレゼンテーション能力を育成します。

学修成果の評価は、各科目の到達目標に対応して行います。

履修案内

1 はじめに

この「履修案内」は、大学での授業の仕組みとその履修に必要な手続きなどを、本学学則及び履修細則に従って解説したものである。授業の内容や事務上の手続きをよく知らなかったために学修に思わぬ支障をきたすことがあるので、そのようなことのないよう、この「履修案内」を十分活用されたい。また、4月に行われるガイダンスを必ず受けるとともに、不明な点がある場合は学生室またはアドバイザー教員を訪ねて相談するようにされたい。

以下、単位制、授業、授業科目、履修申告・登録、試験、成績評価、進級・卒業などについて記してあるので、熟読のうえ今後の学修に役立ててほしい。

2 単位制

(1) 単位制とは

単位とは、一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるものである。大学で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して合格すれば、単位が取得できることになっている。これが単位制である。本学における学修においても、すべて単位数によってその達成度が測られ、進級及び卒業の可否が決定される。

単位制では、履修年次と無関係に単位を取得できるのが本来の建前である。しかし、低学年次で履修しておかないと高学年次になってから困ることが実際におこるので、本学部では、全学共通科目を除くすべての科目に対し履修する年次（「配当年次」という）を示し、これに沿って履修すれば学習効果があるように配慮してある。

(2) 単位と時間数

- ① 授業は前期、後期の2学期に分けて実施され、15週をもって1学期、30週をもって1学年としている。
- ② 1単位の履修時間は、教室の内外合わせて計45時間である。従って、1科目につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。
- ③ 科目の単位は次の基準によって定められている。

[1単位の基準表]

区 分	授業時間	自習時間	計	備 考
講 義	15	30	45	講義等の教室における授業時間は、 22.5時間または30時間とすることがある。
外国語・演習	30	15	45	
実験・実習・実技	45	—	45	

以上のように1単位と計算される勉学の時間量には、教室内における講義だけでなく、学生の自学自習時間をふくめて計算することになっている。従って、学生の自主的勉学は、大学生活の不可欠の要素として重視されている。

3 授業

(1) 授業を受ける心構え

授業は、学生各自の学修研究の基盤であり、学問的にも人間的にも深化をめざすものであり、それは決して形式的な強制によって達成されるものではなく、各自の自主的な強い深い探求心によってこそ所期の成果が期待される。

(2) 学期

年間の授業日数は、定期試験等の日数を含め35週にわたっている。本学での授業は、15週にわたる期間を単位として、前期・後期の2学期制を採用している。

(3) 授業時間

授業は、年度ごとに決められた授業時間割表に従って行われる。授業の時間割及び教室は変更される場合があるので、掲示（学部棟玄関ホールにある掲示板だけでなく「Web 学生サービス支援システム」掲示板も含む）に注意すること。

1日を以下の5つの時限に区切り、これを基本単位として授業は実施される。1時限あたりの授業時間は90分である。

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
時間	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

(4) 授業の出席登録

授業の出席登録は、教室の壁に設置してあるICカードリーダを用いて行っている（授業によっては、口頭や紙面などで行う場合もあるため、担当教員の指示に従う）。学生証が必要であるため、授業に出席するときは必ず携帯すること。もし忘れた場合、その授業が終わり次第、速やかに担当教員に連絡する。また、授業の出席状況を、「Web学生サービス支援システム」掲示板により確認することができる。

出席登録において代返行為や虚偽申告などの不正を行った者には、当該科目のその年度の単位を与えない処分を行う他、当該学期での全科目について単位を与えない処分や学則に基づく懲戒処分を行うことがある（履修細則第10条）。以下の事項は不正行為にあたるため、十分注意すること。

例 他人に依頼して、自分の出席登録を行わせた。他人に依頼されて、他人の出席登録を行った。

(5) 休講、集中講義等

① 休講等

休講、授業時間及び授業場所の変更は、掲示板（「Web学生サービス支援システム」掲示板を含む）に掲示されるので、注意すること。休講の連絡がなく講義が行われなかった場合は、学生室へ連絡して確かめること。

② 集中（隔週）講義

科目によっては、ある一定期間内に集中して行う講義または隔週に行う講義がある。詳細は、掲示（「Web学生サービス支援システム」掲示板を含む）で連絡する。

③ 補講

補講が行われる場合には、掲示（「Web学生サービス支援システム」掲示板を含む）等により連絡をするので、日時・教室などをよく確かめ授業に出席すること。

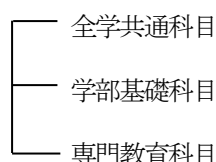
④ 変則講義

変則講義（全学的に実際の曜日とは異なる曜日の時間割を用いて授業を実施する制度）については、あらかじめ年間授業予定表に記載があるので、確認すること。その他、掲示（「Web学生サービス支援システム」掲示板を含む）等により連絡をするので、日時・教室などをよく確かめ授業に出席すること。

4 授業科目

(1) 授業科目の分類

授業科目はその性質により次のように分類される。



(2) 授業科目の説明

本学では全学共通科目、学部基礎科目及び専門教育科目に分けて授業科目が開設され、学生はそれぞれについて規定を満たすように履修しなければならない。

① 全学共通科目

全学共通科目は、人格形成の基礎となるよう、できるだけ幅広い視野で専門教育との関連にとらわれず学習してもらいたい、全学部の学生に対して開講される科目である。詳細は、「13. 全学共通科目の履修について」を参照すること。

② 学部基礎科目

学部基礎科目は、専門教育の基礎となるもので、すべて必修科目である。

③ 専門教育科目

専門教育科目には、講義科目と実験・実習科目がある。

専門教育は、“食と健康”の問題を科学的に追究するための専門的な知識や技術を身につけることを目的としている。それぞれの専門教育科目の内容、使用テキスト、担当教員などについては講義概要に示している。4年次に行う卒業研究（必修8単位）は、配属された研究室の指導教員より与えられた独自の研究題目について研究を行い、卒業論文を作成・提出することにより単位が認められる。

(3) 必修、選択による履修区分

授業科目は、進級・卒業の要件として履修しなければならないか否かにより次のように分類される。

必修科目 … 必ず修得しなければならない科目

選択科目 … 指定された科目群のうちで、所定の単位を必ず取得しなければならない科目

5 履修登録

(1) 履修登録の意味

履修しようとする授業科目については、所定の手続きに従って履修登録をしなければならない。履修登録を怠ると、たとえ授業に出席し、試験を受け、十分に学習したという実績があったとしても、単位を取得することはできない。

(2) 履修登録の時期及び方法

履修登録は、各学期のはじまる4月と10月に行う。履修登録は「Web学生サービス支援システム」により行う。システムへの登録期間は、掲示板（「Web学生サービス支援システム」を含む）等で通知される。登録期限後の受付や履修科目の変更は原則として行わない。なお、履修登録に関する注意事項などは新年度はじめのガイダンス時に知らせる。

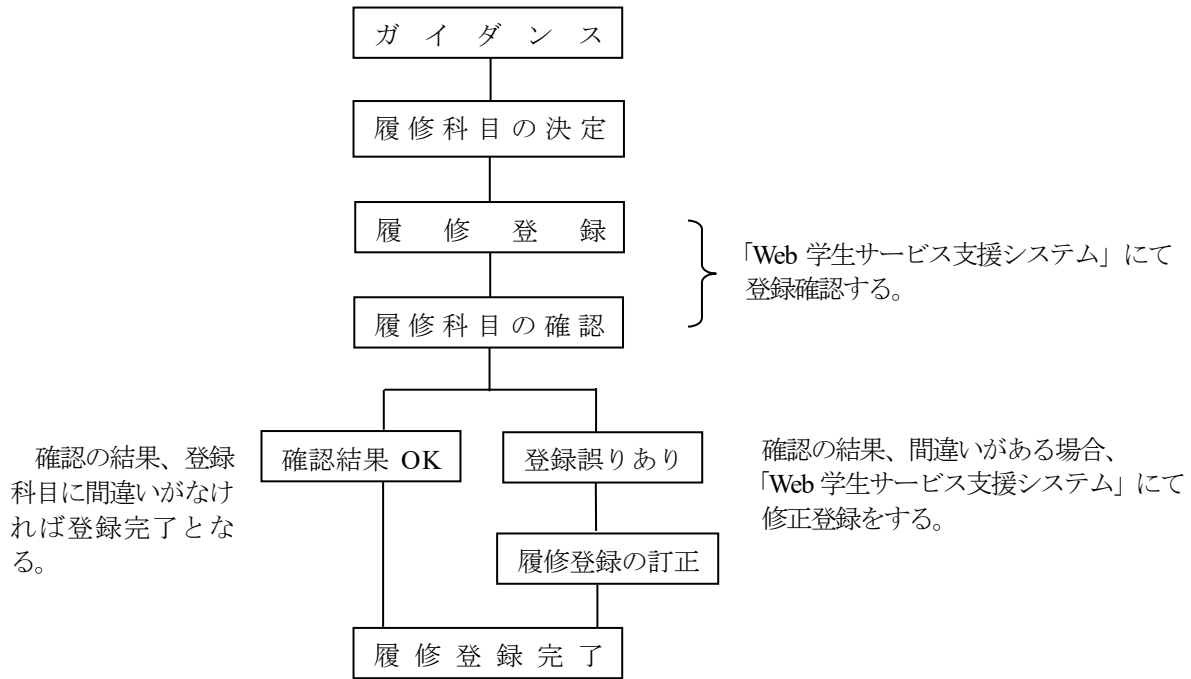
(3) 履修登録の確定作業

履修登録の結果は、履修登録期間中に「Web学生サービス支援システム」にて自ら登録状況を確認すること。登録した授業を変更したい場合も、この期間中に変更を行うこと。

(4) 履修登録の注意事項

- ① 原則として同一時間に2科目以上の科目を重複して履修登録することはできない。
- ② 既に単位を修得した科目の再履修はできない。
- ③ 施設上または教育上やむを得ないと認められる場合、履修登録期間の事前または事後に履修者を制限することがある。
- ④ クラスが指定されている場合は、それに従って登録すること。
- ⑤ 学期の後半に開講される授業科目であっても、原則として各学期の履修登録期間に履修登録すること。
- ⑥ 必修科目であっても、他の選択科目と同様に履修登録の内容を確認すること（自動登録はされない）。
- ⑦ 全学共通科目には先着順で履修できる科目があるので、注意すること。
- ⑧ 環境生命科学科は、各年次に履修登録できる単位数は50単位以下とする。ただし、各学年末の成績上位5名については、その翌年次の履修制限を課さないこととする。

(5) 履修登録の流れ図



(6) 他学部の授業科目の履修

他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を得たうえで、当該学部長の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式（用紙は学生室にある）により、当該科目が開講される学期の履修登録期間に学生室に提出すること。

他学部の授業科目を履修した者には、単位の認定を行うが卒業必要単位数には算入しないので、注意すること。

※ 他学部の授業科目については、学生室に問い合わせること。

(7) 本学の授業科目によらない単位の修得

① 他の大学又は短期大学の授業科目の履修

- a 学則第 39 条第 1 項の規定に基づき、他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとするときは、指導教員の承認を受けた上で、所定の書式による履修登録願を別に定める期間内に学生室に提出しなければならない。
- b 前項に基づいて履修した者には、審査の上、単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しない。

② 大学以外の教育施設における学修

- a 学則第 39 条第 2 項に規定する本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる学修は次のとおりとする。
 - i 英語検定 1 級合格については、学部基礎科目英語、最大 6 単位とみなし、「秀 (100 点)」の単位認定を行う。
 - ii 英語検定準 1 級合格については、学部基礎科目英語、最大 4 単位とみなし、「秀 (100 点)」の単位認定を行う。
 - iii TOEIC 公開テストスコア 800 点以上取得については、「TOEIC 英語」、最大 2 単位とみなし、「秀 (100 点)」の単位認定を行う。
 - iv TOEIC 公開テストスコア 730～799 点取得については、「TOEIC 英語」最大 1 単位とみなし、「秀 (100 点)」の単位認定を行う。
 - v 環境計量士試験合格については、「環境計量論」2 単位とみなし、「秀 (100 点)」の単位認定を行う。
- b 前項に規定する単位認定を受けようとする者は、それぞれの学期の履修登録期間が始まる前に、学生室に学修の成果を証する書類を添えて申請し、教授会の承認を得なければならない。

③ 入学前の既修得単位の認定

学則第 40 条に規定する単位認定を受けようとする者は、1 年次の所定の期日までに申請しなければならない。

6 試験

(1) 試験とは

大学は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験の成績等によって単位を与える。

試験は、筆記による場合が最も多いが、授業担当教員の判断により、レポートあるいは口頭試問、実技テストのように他の方法により評価を決定する場合もある。また、出席状況その他平素の成績も評価を判定する資料となる。

(2) 試験の種類

① 定期試験

定期試験は、各科目の終了時に実施される。定期試験時間割は、試験開始の10日前までに掲示により発表される。発表後も変更されることがあるので、注意すること。

② 随時試験

定期試験期間以外に授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。この場合、授業や掲示などで伝達されることが多いので、聞きもらしや見落としのないように注意すること。

③ 追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

ア. 病気（ただし、医師の診断書を要する）

イ. 忌引（1、2親等に限り、死亡の日より1週間以内）

ウ. 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あり、証拠等を提示できるもの）

エ. その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あり、証拠等を提示できるもの）

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意すること。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に追試験願（用紙は学生室にある）にその事由を詳記し、医師の診断書またはその事由を証明する書類を添付し、担当教員に提出する。

④ 再試験

定期試験の結果が不可または不合格となった場合に、なお当該科目を修得したいものは再履修するのが原則である。しかし、やむを得ない事情により授業科目担当教員が再試験の必要を認める場合には、これを行うことがある。なお、再試験の成績評価は原則として、可以下とする。

(3) 受験上の注意

試験場内では、すべて監督者の指示またはあらかじめ指示されている事項に従わなければならない。

定期試験の受験方法は次のとおりである。

① 本学学生らしく正々堂々と受験し、かりそめにも不正行為などしてはならない。

② 受験時の座席については、特に指示がない場合は、1つ置きに着席すること。

③ 試験時は、使用が認められている物だけを机の上に置き、それ以外の持ち物は収納すること。

④ 机の上に学生証を置くこと。学生証のない者は受験できないので注意すること。

⑤ 学生証を忘れた者は、学生室にて、定期試験仮受験票を発行してもらい、机の上に置くこと。

⑥ 原則として試験開始時刻より30分を過ぎた場合は、試験場への入室は認めないので、注意すること。

(4) 不正行為

もし不正行為があれば、学則及び食品栄養科学部履修細則に照らし、懲戒する。筆記試験における不正行為には以下のようなものが挙げられる。

例 身代わりに受験をしたり、受験をさせたりすること。他者の答案を見たり、自分の答案を見せたりすること。

許可されていないものを持ち込んだり、使用したりすること（カンニングペーパー、書籍、ノート、電子辞書など）。

携帯電話やスマートフォン、ウェアラブル端末などの電子機器類を使用すること（時計としての使用も不可）。

その他、試験の公正な実施を妨げると認められる行為。

7 学修の評価

(1) 学修の評価

各授業科目を履修する学生に対する学修評価（成績）は、履修細則及び担当教員の評価方針により、試験の成績、提出されたレポートの質の高さ、授業出席状況などの学生の学修実績に基づき、秀・優・良・可・不可または合格・不合格の評語で評定される。

(2) 評価の基準

評価	秀	優	良	可	不可
	合格	合格	合格	合格	不合格
点数	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下

秀・優・良・可及び合格と評定されたものには、当該授業科目の単位が与えられる。なお、科目の履修登録をしたにも関わらず履修しなかった授業科目は、不可または不合格と評定されるので注意すること。

(3) 成績の発表

前期科目の成績は9月、後期及び通年科目の成績は3月に、「Web 学生サービス支援システム」で各学生に掲示される。

8 進級・卒業・留年

(1) 修業年限と在学年限

食品栄養科学部の標準修業年限は4年と定められている。また、在学期間は8年間を超えることができない。ただし、この中に休学期間は算入されない。

(2) 進級・卒業・留年

本学部では、単位制の建前をとりながらも、進級または卒業にあたって次に掲げる進級要件及び卒業要件を定めている。

① 3年次進級要件

ア 3年次に進級するためには、2年以上在学し、③卒業要件に定められた全学共通科目（食品生命科学科・栄養生命科学科は14単位、環境生命科学科は8単位）及び学部基礎科目（22単位）の最低必要修得単位数を修得する必要がある。このうち、5単位以上が未修得の者は原則として留年となる。

イ 進級・留年の決定は教授会の議を経て行う。

② 4年次進級要件

ア 4年次に進級するためには、3年以上在学し、③卒業要件に定められている最低必要修得単位数のうち3年次までに配当された科目を修得する必要がある。このうち、必修科目・選択科目あわせて10単位以上を未修得の者は原則として留年となる。

イ 進級・留年の決定は教授会の議を経て行う。

③ 卒業要件

ア 卒業するためには、4年以上在学し、下表に定められている最低必要修得単位数を修得し、修学期間を通して行う研究について学位論文としてまとめ、その内容を論文発表会で発表しなければならない。

イ 卒業・留年の決定は教授会の議を経て行われる。

ウ 4年次において卒業要件を満たさず留年したものが年度途中で要件を満たした場合は卒業できることがある。

エ 最低必要修得単位数（令和8年度入学生）

	全学	学部	専門教育科目		合計
	共通科目	基礎科目	必修	選択	
食品生命科学科	14	22	74	20	130
栄養生命科学科	14	22	84	17	137
環境生命科学科	8	22	52	42	124

9 資格及び免許状など

資格免許など	学科	取得要件など	試験日など
(1) 栄養士	栄	指定科目の単位修得・卒業（学士の学位）	
(2) 管理栄養士	栄	卒業（学士の学位）・国家試験合格（受験資格には指定科目の単位修得及び卒業見込みが必要）	2月下旬 ～3月上旬
(3) 栄養教諭一種免許状	栄	指定科目の単位修得・卒業（学士の学位）・管理栄養士免許又は管理栄養士養成課程修了（栄養士免許）	
(4) 理科教諭一種免許状	食環	指定科目の単位修得・卒業（学士の学位）	
(5) 食品衛生監視員	食栄環	卒業により取得することができる任用資格	
(6) 食品衛生管理者	食栄環	卒業により取得することができる任用資格	
(7) 技術士補（農業部門）	食	卒業後申請することにより取得できる	
(8) 環境計量士（濃度関係）	環	受験資格に制限なし	12月中旬

(1) 栄養士

（栄養士法第1条第1項）

栄養士とは、都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいう。

栄養士免許証を取得しようとする者は、厚生労働大臣の指定する栄養士養成施設・管理栄養士養成施設（本学栄養生命科学科）において必要な授業科目の単位数を修得しなければならない。栄養生命科学科を卒業する者で栄養士法に規定する所要資格を有する者は、栄養士免許証の授与申請ができる。

(2) 管理栄養士国家試験

（栄養士法第1条第2項）

管理栄養士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、個人の身体の状況、栄養状況等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状況、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者をいう。

（栄養士法第2条第3項）

管理栄養士の免許は、管理栄養士国家試験に合格した者に対して、厚生労働大臣が与える。

試験を受けようとする者は、栄養士法施行規則第18条に規定する次の書類を提出する。受験手続は大学が一括して行う。合格者は管理栄養士免許申請書を原則として住民票のある住所地の都道府県庁または保健所を経由して、厚生労働大臣へ提出し、管理栄養士免許を取得して、管理栄養士になることができる。

(3) 栄養教諭一種免許状

栄養教諭は、学校における食育の推進において中核的な役割を担う人材であり、食に関する指導（学校における食育）と学校給食の管理を一体のものとしてその職務として設置されることとなった（学校教育法）。

栄養生命科学科では、管理栄養士の資格に必要な科目に加えて、本学で定めた指定科目（別紙参照）を単位修得することで、栄養教諭普通免許状（一種）を取得することができる。

(4) 理科教諭一種免許状

「高等学校には、校長、教頭、教諭および事務職員を置かなければならない」と規定され、「教諭」は生徒の教育をつかさどると規定されている（学校教育法）。

食品生命科学科と環境生命科学科では、教育職員免許法に基づき、本学が定めた教職課程科目（別紙参照）の単位を修得することによって、高等学校教諭一種免許状（理科）を取得することができる。

(5) 食品衛生監視員

食品衛生監視員は食品衛生に関する指導の職務を行うため、国、県、市、区に置き、当該職員の中から知事、市長等が任命する（食品衛生法第 30 条参照）。

食品、栄養及び環境生命科学科を卒業した者は、食品衛生監視員の資格が取得できる。免許ではないので申請、届け出の手続きはない。知事、市長等が任命する際に食品衛生監視員の養成施設において所定の課程を修了したことを証する書面（卒業証明書）が必要となる。

(6) 食品衛生管理者

食品衛生管理者は食品等の製造、加工に従事する者を監督しなければならない（食品衛生法第 48 条参照）。乳製品その他特に衛生上の考慮を必要とする食品等の製造、加工を行う営業者は、その製造又は加工を衛生的に管理させるため、営業施設ごとに専任の食品衛生管理者をおかななければならない。

食品、栄養及び環境生命科学科を卒業した者は、食品衛生管理者の資格が取得できる。営業者が営業施設の所在地を管轄する保健所長を経て知事に届出る。（法 48 条第 8 項）届出記載事項の添付書類として食品衛生管理者の履歴書、養成施設において所定の課程を修了したことを証する書面（卒業証明書）が必要となる。

(7) 技術士補（農業部門）

技術士とは、高度の専門的能力を備えた技術者であり、様々な産業分野（全 21 部門）で認められている国家資格である。また、技術士補とは、将来、技術士となる人材を育成することを目的として存在する国家資格で、技術士の指導の下で技術士を補佐する業務を行う。食品生命科学科を卒業した者は、JABEE（17 ページ参照）認定プログラムの修了生として、技術士の第一次試験が免除され、「技術士補登録申請書」、「補助しようとする技術士の証明書」、「JABEE 認定修了証」等を提出することで、技術士補が取得できる。

(8) 環境計量士（濃度関係）

環境計量士は、計量法第 122 条（計量士）及び経済産業省令（計量法施行規則第 50 条）で定める国家資格である。

計量士は、計量器の検査その他の計量管理を適確に行うために必要な知識経験を有する者を言い、計量士国家試験に合格し、かつ、経済産業省令で定める実務の経験その他の条件に適合する者になることができる。環境生命科学科では、環境計量士（濃度関係）試験のための分析化学、反応有機化学、環境分析化学、環境計量論、基礎環境生命科学実験などの講義・演習・実験科目を用意している。

10 学生相談等

(1) アドバイザー制度

本学部は、学生の修学や進路等の学生生活全般の事柄について適切な支援及び指導や助言を与えるため、全学科1～4年生に対し下記の教員をアドバイザーとして任命している。それぞれの教員の連絡先・オフィスアワーは、次項「(2) 教員オフィスアワー」を参照されたい。

[令和8年度アドバイザー教員名]

学 年	アドバイザー教員 (学科)		
1年生	伊藤圭 准教授 (食品) 本同 准教授 (食品) 寺田 助教 (食品) 梁 助教 (食品)	栗木 教授 (栄養) 串田 准教授 (栄養) 江口 講師 (栄養)	雨谷 教授 (環境) 内田 准教授 (環境) 岩瀬 助教 (環境)
2年生	永井重 教授 (食品) 下山田 教授 (食品) 大原 助教 (食品) 村上 助教 (食品)	新井 教授 (栄養) 三浦 教授 (栄養) 佐藤 助教 (栄養) 齋藤 助教 (栄養)	谷幸 教授 (環境) 原 教授 (環境) 梅澤 助教 (環境) 水鳥 助教 (環境) 藁科 助教 (環境)
3年生	江木 教授 (食品) 鮒 准教授 (食品)	市川 教授 (栄養) 保坂 教授 (栄養) 大槻 助教 (栄養) 榛葉 助教 (栄養)	谷晃 教授 (環境) 永井大 准教授 (環境) 岡本 助教 (環境) 増井 助教 (環境)
4年生	伊藤創 准教授 (食品) 中野 准教授 (食品) 千菅 助教 (食品) 藤浪 助教 (食品)	角替 教授 (栄養) 林 教授 (栄養) 太田 助教 (栄養) へムストック助教 (栄養)	伊吹 教授 (環境) 田村 准教授 (環境) 唐木 助教 (環境)
	熊澤 教授 (食品) 増田 教授 (食品) 島村 助教 (食品) 本田 助教 (食品)	桑野 教授 (栄養) 三好 教授 (栄養) 秦 助教 (栄養) 小林 助教 (栄養)	牧野 教授 (環境) 徳村 助教 (環境) 明正 助教 (環境)

(2) 教員オフィスアワー

授業科目に関する学生からの質問や学生の個別の相談などに対応するため、オフィスアワーを設定している。講義等の質問や個別の相談等をしたい場合は、以下の表のメールアドレスへの事前連絡が望ましいが、部屋番号を確認の上、オフィスアワーの時間に訪問してもよい。

① 食品生命科学科オフィスアワー

* この後に@u-shizuoka-ken. ac. jp

氏名	部屋番号	電話番号	e-mail *	オフィスアワー
熊澤茂則	5203	5523	kumazawa	水～金：5時限
本田千尋	5204	5524	honda1201	月～金：12:10～13:00
下山田真	5202	5522	shimoyam	月、火：12:10～13:00
村上和弥	5205	5525	murakami	月～金：12:10～13:00
増田修一	5208	5528	masudas	月～金：12:10～13:00
島村裕子	5207	5526	shimamura	月～金：12:10～13:00
江木正浩	5402	5542	egi	月～金：5時限
伊藤圭祐	5403	5543	sukeito	月～金：12:10～13:00
寺田祐子	5404	5544	yukoterada	月～金：12:00～13:00

鮒 信学	5502	5552	funa	金：5時限
永井重徳	5503	5553	shigenagai	月～金：12:10～13:00
伊藤創平	5710	5576	itosohei	火、金：12:10～13:00
藤浪大輔	5708	5578	dfujinami	月～金：12:10～13:00
中野祥吾	5328	5582	snakano	火、金：12:10～13:00
千菅太一	5327	5583	chigusa. t. aa	火、金：12:10～13:00
本同宏成	2201	5224	hondoh	月～金：12:10～13:00
梁 弘基	2202	5224	ryok624	月～金：5時限
大原裕也	2205	5226	y-ohhara	月～金：12:10～13:00

② 栄養生命学科科オフィスアワー * この後に@u-shizuoka-ken. ac. jp

氏名	部屋番号	電話番号	e-mail *	オフィスアワー
市川陽子	5102	5512	ichity	月：12:15～12:55、5時限
大槻尚子	5105	5514	naoko-o	月：12:10～13:00
桑野稔子	5103	5513	kuwano	月～金：12:10～13:00
秦俊貴	5104	5515	t. hata	月～金：12:10～13:00
江口智美	5226	5823	s_eguchi	月～金：12:10～13:00
三好規之	5311	5531	miyoshin	月～金：12:10～13:00
小林琢磨				
林 久由	5302	5532	hayashih	月～金：12:10～13:00
へムストック ウェンディ	5305	5535	whempstock	月～金：12:10～13:00
栗木清典	5321	5563	kuriki	月～金：12:10～13:00、水：5時限
三浦進司	5509	5559	miura	月～金：12:10～13:00
佐藤友紀	5508	5558	tsato1	月～金：12:10～13:00
新井英一	5603	5511	arai	水、木：12:10～13:00
齋藤瑛介				
保坂利男	5611	5567	toshio. hosaka	月、火、木：12:10～13:00 水：4時限
榛葉有希	5610	5561	shimba	月～金：5時限
角替弘規	5128	5569	tsunogae	水、木：12:10～13:00
太田敏郎	5127	5919	ohtat	水：5時限
串田 修	5121	5832	kushida	月～金：12:10～13:00

③ 環境生命学科科オフィスアワー * この後に@u-shizuoka-ken. ac. jp

氏名	部屋番号	電話番号	e-mail *	オフィスアワー
原 清敬	12203	5659	k-hara	月、木：5時限
水鳥 律	12208	5649		月、木：5時限
田村謙太郎	12301	5707	tamura	月～金：12:10～13:00
唐木晋一郎	12309	5794	karaki	月～金：8:30～10:30
内田邦敏	12303	5787	kuchida	月～金：5時限
岩瀬麻里	12306	5792	imari	月～金：5時限
伊吹裕子	12401	5799	ibuki	月～金：12:10～13:00
谷 幸則	12402	5797	taniy	月：3時限
梅澤和寛	12408	5793	k. umezawa	月：3時限
明正大純	12406	5791	taijun	月～金：12:10～13:00
雨谷敬史	12501	5798	amagai	火：11:00～12:00

雨谷敬史	12501	5798	amagai	火：11:00～12:00
永井大介	12502	5729	daisukenagai	月～金：10:00～12:00
岡本衆資	12508	5728	sokamoto	月～金：12:10～13:00
谷 晃	12602	5788	atani	月～金：12:10～13:00
増井 昇	12608	5739	nmasui	月～金：12:10～13:00
牧野正和	12603	5785	makinom	月、金：5時限
徳村雅弘	12607	5783	tokumura	月～金：12:10～13:00
藁科 力	12308	5689	warashin	月～金：12:10～13:00

(3) 学生の身分異動

① 休学及び復学

病気その他やむを得ない理由により2ヶ月以上修学困難な場合は、所定の休学願を学生室に提出し許可を得れば1年以内に限り休学が認められる。なお、病気による休学の場合は、医師の診断書を添付することが必要である。特別の事由がある場合は、さらに1年を限度として休学を延長することができる。休学期間は通算して3年を超えることはできない。

休学期間中にその事由が消滅したときは、復学願を提出し許可を得れば学業に復することができる。この場合には、病気であれば医師の治癒認定の診断書を添付する必要がある。

休学期間は、在学期間に算入されないため、卒業が遅延することとなるので、注意すること。

ア 1年間の休学及び半年を越え1年未満の休学については留年。

イ 半年間の休学及び2ヶ月以上半年未満の休学については、個々のケースについて教授会で検討する。

② 退学

病気その他の事情により学業継続が困難となり退学しようとするときは、退学願を学生室へ届け出なければならない。事情によっては、大学が問題解決の援助ができる場合があるので、あらかじめアドバイザー教員または学生室に相談すること。

11 学部基礎科目（英語）評価表について

学部基礎科目のうち下記の英語科目の成績評価は、各学期に全学的に実施されるTOEIC IPテスト*1の成績をふまえて以下の表から決定される。表記科目の履修にあたり、十分に理解をしておくこと。

○1・2年共通

教員授業評価は、2/3 以上の出席がある学生に対して行い、課題や演習、期末試験点数を総合して算出。

教員授業評価が60%未満の場合は一律「不可」。

◆リスニング I

TOEIC-IP 受験が必須。レベル別評価表 (①) による教員授業評価 (レベル分けなし、一律 High レベル) と TOEIC-IP スコアを元に、クロス判定表 (②) を使用して最終評価を行う。

◆リスニング II、TOEIC 英語 I

TOEIC-IP 受験が必須。レベル別評価表 (①) と TOEIC-IP スコアを元に、クロス判定表 (②) を使用して最終評価を行う。

◆TOEIC 英語 II

レベル別評価表 (①) を使用して、教員授業評価 (=最終評価) を行う。(TOEIC-IP 受験なし)

【①レベル別評価表 (教員授業評価)】

		授業評価				
		A	B	C	D	E (不可)
レ ベ ル	Advanced	100-85	84-75	74-65	64-60	59 以下
	High	100-90	89-80	79-70	69-60	59 以下
	Middle	100-95	94-85	84-70	69-60	59 以下
	Low		100-90	89-75	74-60	59 以下

【②クロス判定表】

リスニングIおよびII (TOEIC-IP スコアが400点未満でも救済可)

リスニング II		TOEIC-IPテストの成績 (スコア)						
		670以上	600以上	550以上	470以上	400以上	400未満	未受験
担 当 教 員 授 業 評 価	A	秀 (100)	秀 (95)	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	不可
	B	秀 (95)	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	不可
	C	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	可 (60)	不可
	D	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	可 (60)	不可	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

表中 () 内の数字は素点 (100点満点) である。

TOEIC英語 (TOEIC-IP スコアが400点未満または未受験の場合は評価が「不可」)

TOEIC 英語 I		TOEIC-IPテストの成績 (スコア)						
		730以上	670以上	600以上	550以上	470以上	400以上	400未満・未受験
担当 教員 授業 評価	A	秀 (100)	秀 (95)	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	不可
	B	秀 (95)	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	不可
	C	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	可 (65)	不可
	D	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	可 (65)	可 (60)	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

表中 () 内の数字は素点 (100 点満点) である。

*1. TOEIC対象科目 (リスニング I, II 及び TOEIC 英語 I) の評価対象となる試験は、下記の3試験である。

ただし、①を受験した者のみが、②、③を受験できる。

① 学内で行われる TOEIC IP テスト (前期科目は7月末～8月初旬、後期科目は2月に実施)

② 言語コミュニケーション研究センター主催の TOEIC IP テスト

③ 学外で行われる TOEIC 公開テスト

(リスニング I は9月、リスニング II は7月、TOEIC 英語 I は翌年1月実施分まで)

12 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (応用基礎レベル) 認定証について

文部科学省、内閣府、経済産業省が連携する「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に基づき、本学部の教育プログラムは文部科学大臣より認定を受けている。本プログラム (応用基礎レベル) は、リテラシーレベルの基礎を土台に、各科学の「専門知識」と「データサイエンス」を融合させ、課題解決型学習を通じて社会問題を解決する実践力を養う。所定の課程を修了した者に付与される「修了証」は、研究、医療・保健、分析・評価、さらには企画や開発など幅広い分野で、高度なデータ活用能力を持つ即戦力の証明となる。卒業かつ認定に要するすべての必修科目を単位修得することにより認定される (環境生命科学科のみ、認定に要する1科目が卒業に要する選択科目であるため、当該科目を単位修得することにより認定される)。

13 JABEE について

JABEE とは Japan Accreditation Board for Engineering Education (日本技術者認定機構) の略で、その認定基準は、技術者教育認定の世界的枠組みであるワシントン協定などの考えに準拠している。JABEE 認定プログラムである食品生命科学科の技術者教育は、国際的に同等であると認められ、卒業生は世界に通用する教育を受けた技術者で、専門知識、デザイン能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、技術者倫理など、国際的な品質保証的能力・知識等を兼ね備えていると認められている。卒業生 (卒業見込みを含む) は、「JABEE 認定学科を卒業した (卒業予定である)」ことを、就職活動等で明記でき、国外や外資系企業へ就職する際に有利である。また、国内企業においても、「品質保証」が与えられた学生を採用したいとの要望の増加が期待される。

14 全学共通科目の履修について

〈全学共通科目の意義〉

大学における教育体系は、専門教育と専門職業人が備えねばならないヒューマンウェアの教育とに大別できる。本学の全学共通科目は後者の目的で主に1,2年次の第1時限に開講されており、次の3部門及び総合科目に大別されている。

第1部門	リテラシーとスタディ・スキルの教育で、コミュニケーション、表現及び情報処理の3分野からなり、外国語の入門等が開設されている。
第2部門	概論であり、教養教育として必要と思われる科目が開設されている。
第3部門	現代教養として、各学部・研究所から専門分野のトピックスを解説する科目が開設されている。
総合部門	地域社会やキャリアの形成に関する科目が開設されている。

全学共通科目を通して、できる限り広い知識と視野を持ち、激動する現代の社会に対応できる判断力や倫理感を養うことが重要である。

〈全学共通科目の履修〉

全学共通科目は年間40科目を超える科目が用意されている。できるだけ異なった分野の科目を履修しやすいよう、1科目は1~2単位とし、前期あるいは後期（「半期」という）で完結するようになっている。また科目によっては「前期前半」「前期後半」などのように「四半期」で完結するものもあり、「前期前半」の科目を履修した後、「前期後半」の科目を履修することが可能である。この場合、後半開講科目の履修登録は、原則として各学期のはじめの履修登録期間内に行う。

全学共通科目の履修は選択制であるので、学生は自ら自主的に選択し、履修登録して受講する。学生はその選択に責任を持ち、能動的に学習する姿勢を持つことが求められる。

なお、各学部では卒業に必要な単位数のうち、全学共通科目については履修単位数のみ規定している。また、一部の全学共通科目は専門分野の導入科目として位置づけられていない。この場合、学生は全学共通科目ではなく学部基礎科目を履修するよう促されることがあるので注意すべきである。全学共通科目の選択に当たっては、これらの趣旨を考慮して、幅広い知識と視野が持てる科目を選択していただきたい。

身体運動科学（通年）は、本学部の目指す「食と健康」を学ぶ上で、重要な科目であるため、1年または2年の指定された学年にて必ず履修し、必須単位(身体運動科学Aまたは身体運動科学Bのいずれか1科目のみ(通年2単位)を受講すること)として含めなければならない。ただし、心身上の都合によりやむを得ず受講が出来ない場合は、診断書の提出等を学生室に行い、代わりに他の科目を単位数として認定する。

「地（知）の拠点整備事業採択」により設けられた「しずおか学」科目群（第3部門及び総合科目に配置）を卒業までに選択必修科目として最低2単位履修することが求められている。

令和6年度以降の入学生は、数理・データサイエンス・AI入門（1単位）を卒業までに必修科目として履修することが求められている。

● 大学コンソーシアム短期集中講義単位互換制度

協定に基づき、大学コンソーシアムを通じて提供される大学の授業科目を履修し、そこで取得した単位を在籍する大学等の単位として認定する制度。

ふじのくに地域・大学コンソーシアム及び他の大学コンソーシアムを通じて提供された科目で取得した単位は全学共通科目の総合部門として卒業要件単位に算入される。なお、この内ふじのくに地域・大学コンソーシアムを通じて提供される科目は「しずおか学」として扱う。

令和8年度全学共通科目

部門	科目名	単位数	担当教員 (斜体は非常勤講師)
第1部門 (リテラシー・スキルと スタディ)	ドイツ語入門	2	ファイファー・マティアス
	フランス語入門	2	佐原怜
	スペイン語入門	2	杉田和歌子
	中国語入門	2	金笑杰
	日本語作文A	2	逢坂里恵
	日本語作文B	2	逢坂里恵
	中級日本語Ⅰ	2	松尾佳代子
	中級日本語Ⅱ	2	松尾佳代子
	数理・データサイエンス・AI入門	1	武藤伸明 ほか
	ヒューマン・ケア	2	飯島本子
	TOEFL留学英語Ⅰ	1	藤森敦之
	TOEFL留学英語Ⅱ	1	藤森敦之
	TOEICビジネス基礎英語	1	堀内裕晃
	TOEICビジネス英語Ⅰ	1	太田敏郎
	TOEICビジネス英語Ⅱ	1	藤森敦之
第2部門 (概論)	自然科学概論	2	橋本博 ほか
	化学入門	2	眞鍋敬 ほか
	生物学入門	2	梅本英司 ほか
	薬剤発達史入門	2	内田信也 ほか
	物理学入門	2	本同宏成 ほか
	環境科学入門	2	谷幸則 ほか
	哲学入門	2	飯野勝己
	社会思想史入門	2	犬塚協太
	歴史学入門	2	栗田和典
	宗教学入門	2	李美奈
	社会学入門	2	石井由香
	国際関係学入門	2	佐藤真千子 ほか
	文化人類学入門	2	金明美
	心理学入門	2	西田公昭
	生涯発達心理入門	2	篁宗一 ほか
	知的財産管理入門	1	居藤湖都
	第3部門 (現代教養)	国際安全保障入門Ⅰ	2
国際安全保障入門Ⅱ		2	西恭之
くらしと化学A		1	近藤啓 ほか
くらしと化学B		1	近藤啓 ほか
実用科学英語基礎編		2	太田敏郎
実用科学英語応用編		2	太田敏郎
基礎生命科学Ⅰ		2	太田敏郎
基礎生命科学Ⅱ		2	太田敏郎
現代日本文化入門A		1	ファイファー・マティアス

部門	科目名	単位数	担当教員 (斜体は非常勤講師)	
第3部門 (現代教養)	現代日本文化入門B	【英語による科目】	1	ファイファー・マティアス
	経営分析入門A	【英語による科目】	1	上野、竹下
	経営分析入門B	【英語による科目】	1	上野、竹下
	英語で学ぶ日本語学ⅠA	【英語による科目】	1	吉村紀子
	英語で学ぶ日本語学ⅠB	【英語による科目】	1	藤森敦之
	英語で学ぶ日本語学ⅡA	【英語による科目】	1	藤森敦之
	英語で学ぶ日本語学ⅡB	【英語による科目】	1	藤森敦之
	会計学入門A	【英語による科目】	1	上野雄史 ほか
	会計学入門B	【英語による科目】	1	上野雄史 ほか
	言語の学習・習得ⅠA	【英語による科目】	1	吉村紀子
	言語の学習・習得ⅠB	【英語による科目】	1	吉村紀子
	言語の学習・習得ⅡA	【英語による科目】	1	藤森敦之
	言語の学習・習得ⅡB	【英語による科目】	1	藤森敦之
	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	【しずおか学】	2	富安眞理 ほか
	静岡の防災と医療	【しずおか学】	2	細岡哲也 ほか
	静岡地域食材学A	【しずおか学】	1	江口智美 ほか
	静岡地域食材学B	【しずおか学】	1	江口智美 ほか
	茶学入門	【しずおか学】	2	中村順行
	ムセイオン静岡－MUSEUMと文化	【しずおか学】	2	細川光洋 ほか
	ムセイオン静岡－舞台芸術	【しずおか学】	2	古川はるな
	静岡の市民活動	【しずおか学】	1	木村綾
	歴史からみるしずおか学	【しずおか学】	2	上野雄史、村橋勲
	新聞でもっと静岡を知ろう	【しずおか学】	2	上原克仁 ほか
	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	【しずおか学】	2	上原克仁 ほか
	SDGs概論	【しずおか学】	2	近藤啓 ほか
	ふじのくにがストロミーツリズム：観る・食べる・学ぶ	【しずおか学】	2	大久保あかね ほか
静岡ゲームチャリティー実践	【しずおか学】	2	ディハーンジョナサン	
静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－	【しずおか学】	2	伊藤創平 ほか	
総合科目	世界からしずおかを見る しずおかから世界へ	【しずおか学】	2	横井 香織 ほか
	健康イノベーション教育プログラム	【しずおか学】	2	新井英一 ほか
	キャリアデザイン概論		2	東野 定律
	男女共同参画社会とジェンダー		2	犬塚協太 ほか
	人権が支える社会		2	坪田光平
	ジャーナリズム論		2	西恭之 ほか
科運身 学動体	身体運動科学A		2	窪田辰政 ほか
	身体運動科学B		2	窪田辰政 ほか

※しずおか学科目群から2単位以上を卒業までに修得すること。

※【必修科目】は令和6年度以降入学生を対象とし、卒業要件に該当する。

ただし、進級要件については各学部の定めによる。

【実務経験のある教員による科目】

令和8年度

〈全学共通科目〉

科目名	教員氏名	単位数
ヒューマン・ケア	飯島本子	2
生物学入門	梅本英司、ほか	2
薬剤発達史入門	内田信也ほか4名	2
生涯発達心理入門	篁宗一、保坂利男ほか3名、特別講師2名	2
知的財産管理入門	居藤湖都	1
環境科学入門	原清敬	2
くらしと化学A	近藤啓	1
くらしと化学B	近藤啓	1
静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	特別講師	2
静岡の防災と医療	細岡哲也、特別講師	2
静岡地域食材学A	江口智美、特別講師2名	1
静岡地域食材学B	江口智美、特別講師3名	1
茶学入門	中村順行ほか特別講師9名	2
静岡の市民活動	木村綾	1
ムセイオン静岡－MUSEUMと文化	細川光洋、特別講師	2
ムセイオン静岡－舞台芸術	古川はるな	2
新聞でもっと静岡を知ろう	上原克仁・静岡新聞記者	2
企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	上原克仁・静岡県内企業経営者	2
SDGs概論	孫曉剛ほか7名	2
キャリアデザイン概論	東野定律	2
ジャーナリズム論	西恭之、小川和久	2
合計		36

学部基礎科目及び専門教育科目の授業科目名、単位数及び卒業に必要な最低必要修得単位数
(食品生命科学科 令和8年度以降入学生用)

区分	授業科目	必修	選択	備考	区分	授業科目	必修	選択	備考
学部基礎科目	化学 I	2			専門教育科目	微生物学	2		
	化学実験	1				免疫学	2		
	生物学 I	2		(必要修得単位数)		分子生物学	2		
	生物学実験	1				食品衛生学 I	2		
	物理学 I	2				食品衛生学 II	2		
	食品・栄養・環境科学概論 I	2		・必修科目 22単位		生物化学	2		
	食品・栄養・環境科学概論 II	2				生化学実験	1		
	基礎統計学	1		合計 22単位		物理化学	2		
	オーラルコミュニケーション I	1				食品物理学	2		
	オーラルコミュニケーション II	1				物理学実験	1		
	オーラルコミュニケーション III	1				酵素学	2		
	オーラルコミュニケーション IV	1				数学	2		
	リスニング I	1				応用統計学	2		
	リスニング II	1				技術者倫理	2		
TOEIC英語 I	1			バイオインフォマティクス	1				
TOEIC英語 II	1			食品生命情報科学	2				
食品栄養科学入門	1			食品生命科学実験 I	3		(食品有機化学分野)		
専門必修教育科目	食品学総論	2		(最低必要修得単位数)	食品生命科学実験 II	2		(食品衛生学分野)	
	栄養学総論	2			食品生命科学実験 III	2		(食品生命工学分野)	
	情報科学演習	1			食品生命科学実験 IV	2		(食品プロセス工学分野)	
	食品化学	2		・必修科目74単位	英語で学ぶ食品生命科学	2			
	食品化学実験	2		・選択科目20単位	卒業研究	8			
	有機化学 I	2		合計 94単位					
	有機化学 II	2							
	有機化学 III	2							
	食品工学 I	2							
	食品工学 II	2							
	食品プロセス学	2							
食品分析化学	2								
食品包装論	1								
発酵学	2								
専門選択教育科目	化学 II		2		基礎数学*		2	*卒業必要単位	
	生物学 II		2		分析化学		2	としては取り	
	物理学 II		2		植物学		1	扱われない	
	人体生理学		2		環境工学		2		
	栄養化学		2		循環資源論		2		
	機器分析学		2		地学 I		2		
	天然物化学		2		地学 II		2		
	放射化学		2		地学実験		1		
	食料経済		2		代謝工学		2		
	蛋白質工学		1		食料生産学		2		
	海外研修英語		1		食品機能学		1		
	インターンシップ		1		食品マーケティング論		1		

(最低卒業必要修得単位数) 130単位

学部基礎科目及び専門教育科目の授業科目名、単位数及び卒業に必要な最低必要修得単位数
(栄養生命科学科 令和8年度以降入学生用)

区分	授業科目	必修	選択	備考	区分	授業科目	必修	選択	備考
学部基礎科目	化学Ⅰ	2			専門教育科目 必修科目	情報科学	2		
	化学実験	1				応用栄養学Ⅱ	2		
	生物学Ⅰ	2				栄養学実験	1		
	生物学実験	1		(必要修得単位数)		栄養機能論	2		
	物理学Ⅰ	2				栄養化学実験	1		
	食品・栄養・環境科学概論Ⅰ	2				応用栄養学実習	1		
	食品・栄養・環境科学概論Ⅱ	2		・必修科目 22単位		臨床栄養学	2		
	基礎統計学	1				臨床病態学	3		
	オーラルコミュニケーションⅠ	1		合計 22単位		治療食実習	1		
	オーラルコミュニケーションⅡ	1				臨床栄養学実習	1		
	オーラルコミュニケーションⅢ	1				臨床栄養管理学Ⅰ	2		
	オーラルコミュニケーションⅣ	1				公衆衛生学	2		
	リスニングⅠ	1				健康管理概論	1		
	リスニングⅡ	1				公衆衛生学実験	1		
	TOEIC英語Ⅰ	1				栄養教育論Ⅰ	2		
TOEIC英語Ⅱ	1			栄養教育論Ⅱ	2				
食品栄養科学入門	1			栄養教育論実習	1				
専門教育科目 必修科目	生化学Ⅰ	2		(最低必要修得単位数)	公衆栄養学Ⅰ	2			
	生化学Ⅱ	2		・必修科目84単位	公衆栄養学Ⅱ	1			
	生化学実験	1		・選択科目17単位	給食経営管理論Ⅰ	2			
	微生物学	2		合計 101単位	給食経営管理論Ⅱ	2			
	免疫学	2			調理科学	2			
	微生物学実験	1			応用統計学	2			
	食品衛生学実験	1			栄養疫学	1			
	食品化学	2			食品学総論	2			
	食材学	2			食品衛生学	2			
	基礎栄養学	2			解剖生理学	3			
	応用栄養学Ⅰ	2			解剖生理学実験	1			
データサイエンス・A	2			保健医療福祉論	1				
専門教育科目 選択科目	化学Ⅱ		2		栄養生命科学英語		1		
	生物学Ⅱ		2		総合演習		2		
	物理学Ⅱ		2		臨地実習(臨床栄養学)		2		
	運動生理学		1		臨地実習(公衆栄養学)		1		
	病理学		1		校外実習(給食の運営)		1		
	食品学実験		2		給食経営管理演習		1		
	臨床栄養管理学Ⅱ		2		海外研修英語		1		
	臨床薬理学		2						
	公衆栄養学実習		1						
	給食経営管理実習		2						
	調理科学実験		1						
	調理学実習		2						
	栄養カウンセリング論		2						
	食料経済		2						
	放射化学		2						
	有機化学Ⅰ		2						
	有機化学Ⅱ		2						
酵素学		2							
(最低卒業必要修得単位数) 137単位									

学部基礎科目及び専門教育科目の授業科目名、単位数及び卒業に必要な最低必要修得単位数
(環境生命科学科 令和8年度以降入学生用)

区分	授業科目	必修	選択	備考	区分	授業科目	必修	選択	備考	
学部基礎科目	化学 I	2			専門教育科目	微生物学		2	・選択科目Aから	
	化学実験	1				環境微生物学		2	2単位以上履修	
	生物学 I	2		(必要修得単位数)		選択科目A				
	生物学実験	1				選択科目B	食品衛生学 I		2	・選択科目Bから
	物理学 I	2					食品衛生学 II		2	2単位以上履修
	食品・栄養・環境科学概論 I	2		・必修科目 22単位		選択科目C	ヒューマンエコロジ		2	
	食品・栄養・環境科学概論 II	2					環境有機化学		2	・選択科目Cから
	基礎統計学	1		合計 22単位		毒性学		2	2単位以上履修	
	オーラルコミュニケーション I	1				反応有機化学		2		
	オーラルコミュニケーション II	1				合成生物学		2		
	オーラルコミュニケーション III	1				化学 II		2		
	オーラルコミュニケーション IV	1				食品化学		2		
	リスニング I	1				選択科目D	環境分析化学		2	・選択科目A～Dから
	リスニング II	1					栄養学総論		2	22単位以上履修
TOEIC英語 I	1			放射化学		2				
TOEIC英語 II	1			酵素学		2				
食品栄養科学入門	1			食料生産学		2				
専門必修教育科目	環境学総論	2		(最低必要修得単位数)	選択科目E	環境工学		2	・選択科目A～Eから	
	分析化学	2				植物環境学		2	42単位以上履修	
	植物学	1		・必修科目 52単位		代謝工学		2		
	基礎生化学	2		・選択科目 42単位		環境計量論		2		
	細胞生物学	2		合計 94単位		環境応答学		2		
	基礎環境生命科学実験	1				循環資源論		2		
	物理学実験	1				食品学総論		2		
	物理化学	2				インターンシップ		1		
	数学	2				生物学 II		2		
	情報科学	2				物理学 II		2		
	応用統計学	2				地学 I		2		
	植物生理学	2				地学 II		2		
	動物生理学	2				地学実験		1		
	技術者倫理	2				発酵学		2		
	環境生命科学実験 I	2				免疫学		2		
	環境生命科学実験 II	3				食料経済		2		
	環境生命科学実験 III	2				天然物化学		2		
	環境生命科学実験 IV	2.5					食品生命情報科学		2	
	環境科学英語 I	1.5				海外研修英語		1		
	環境科学英語 II	1								
Environmental and Life Sciences	2									
環境生命科学英語	1									
フィールドワーク	1									
環境生命科学研究	3									
卒業研究	8									
					基礎数学*		2	*卒業必要単位としては取り扱われない		

(最低卒業必要修得単位数) 124単位

学則別表Ⅲ-1 栄養士免許及び管理栄養士国家試験受験資格の取得に必要な授業科目名及び単位数
(令和2年度以降入学生用)

教育内容	単位数		科目名	単位数		備考	
	講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習		
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	公衆衛生学	2			
			公衆衛生学実験		1		
			健康管理概論	1			
			情報科学	2			
			保健医療福祉論	1			
	社会・環境と健康の小計			6	1		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	10	解剖生理学	3		
				解剖生理学実験		1	
				生化学Ⅰ	2		
				生化学Ⅱ	2		
				生化学実験		1	
				微生物学	2		
				微生物学実験		1	
				運動生理学	1		
				病理学	1		
臨床病態学				3			
人体の構造と機能、疾病の成り立ちの小計			14	3			
食べ物と健康	8		食品学総論	2			
			食品学実験		2		
			食材学	2			
			調理科学	2			
			調理科学実験		1		
			調理学実習		2		
			食品衛生学	2			
			食品衛生学実験		1		
食べ物と健康の小計			8	6			
専門基礎分野小計			28	10			
専門分野	基礎栄養学	2	基礎栄養学	2			
			栄養学実験		1		
			栄養化学実験		1		
			基礎栄養学の合計単位数			2	2
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2		
				応用栄養学Ⅱ	2		
				栄養機能論	2		
				応用栄養学実習		1	
				応用栄養学の小計			6
	栄養教育論	6		栄養カウンセリング論	2		
				栄養教育論Ⅰ	2		
				栄養教育論Ⅱ	2		
				栄養教育論実習		1	
	栄養教育論の小計			6	1		
	臨床栄養学	8	8	臨床栄養学	2		
臨床栄養管理学Ⅰ				2			
臨床栄養管理学Ⅱ				2			
臨床薬理学				2			
臨床栄養学実習					1		
治療食実習					1		
臨床栄養学の小計				8	2		
公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ	2			
			公衆栄養学Ⅱ	1			
			栄養疫学	1			
			公衆栄養学実習		1		
			公衆栄養学の小計			4	1
給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ	2			
			給食経営管理論Ⅱ	2			
			給食経営管理実習		2		
			給食経営管理論の小計			4	2
総合演習	2	0	総合演習	2			
総合演習の小計			2	0			
臨地実習	0	4	臨地実習(臨床栄養学)		2		
			臨地実習(公衆栄養学)		1		
			校外実習(給食の運営)		1		
			臨地実習の小計			0	4
専門分野小計			32	13			
合計	32	12	合計	83			

学則別表Ⅲ-2 栄養士免許の取得に必要な授業科目名及び単位数
(令和2年度以降入学生用)

教育内容	単位数		科目名	単位数		備考
	講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習	
社会生活と健康	4		公衆衛生学	2		
			公衆衛生学実験		1	
			健康管理概論	1		
			情報科学	2		
			保健医療福祉論	1		
			社会生活と健康の小計	6	1	
人体の構造と機能	8	4	解剖生理学	3		
			解剖生理学実験		1	
			生化学Ⅰ	2		
			生化学Ⅱ	2		
			生化学実験		1	
			微生物学	2		
			微生物学実験		1	
			臨床病態学	3		
			人体の構造と機能の小計	12	3	
食品と衛生	6		食品学総論	2		
			食品学実験		2	
			食材学	2		
			食品衛生学	2		
			食品衛生学実験		1	
			食品と衛生の小計	6	3	
栄養と健康	8		基礎栄養学	2		
			栄養学実験		1	
			応用栄養学Ⅰ	2		
			応用栄養学Ⅱ	2		
			栄養機能論	2		
			栄養化学実験		1	
			応用栄養学実習		1	
			臨床栄養学	2		
			臨床栄養学実習		1	
			治療食実習		1	
栄養と健康の小計	10	5				
栄養の指導	6	10	栄養教育論Ⅰ	2		
			栄養教育論Ⅱ	2		
			栄養教育論実習		1	
			公衆栄養学Ⅰ	2		
			公衆栄養学Ⅱ	1		
			公衆栄養学実習		1	
			栄養疫学	1		
			栄養の指導の小計	8	2	
給食の運営	4		給食経営管理論Ⅰ	2		
			給食経営管理実習		2	
			調理科学	2		
			調理科学実験		1	
			調理学実習		2	
			校外実習(給食の運営)		1	
給食の運営の小計	4	6				
	36	14		46	20	
	50			66		

学則別表Ⅳ 教職に関する授業科目名、単位数及び履修方法
(令和4年度以降入学生用)

免許状 種類	科目区分	授 業 科 目	必 修	選 択	備 考
栄教 一種免	栄養に係る教育 に関する科目	学校栄養教育論	2		
		学校栄養教育実践論	2		
	教育の基礎的理 解に関する科目	教職論	2		
		教育原理	2		
		教育心理学	2		
		教育社会学	2		
		特別支援教育	1		
	道徳、総合的な学 習の時間等の内容 及び生徒指導、教 育相談等に関する 科目	教育課程・特別活動論	2		
		道徳指導論	2		
		総合学習の指導法	2		
		教育方法	1		
		教育における情報通信技術の活用	1		
		生徒指導	2		
		学校カウンセリング	2		
	教育実践に関す る科目	栄養教育実習事前事後指導	1		
		栄養教育実習	1		
		教職実践演習（栄養教諭）	2		
	教職関連科目	日本国憲法	2		身体運動科学は A又はBのいずれ かを1科目を受 講すること
		身体運動科学A		2	
		身体運動科学B		2	
オーラルコミュニケーションⅠ		1			
オーラルコミュニケーションⅡ		1			
情報科学		2			

学則別表Ⅳ 教職に関する授業科目名、単位数及び履修方法
(令和5年度以降入学生用)

免許状 種類	科目区分	授 業 科 目	必 修	選 択	備 考
高一種免 (理科)	教科及び教科 の指導法に関 する科目	物理学Ⅰ	2		
		物理学Ⅱ	2		
		物理学実験	1		
		化学Ⅰ	2		
		化学Ⅱ	2		
		化学実験	1		
		分析化学		2	※環
		生物学Ⅰ	2		
		生物学Ⅱ	2		
		生物学実験	1		
		植物学		1	※環
		分子生物学		2	※食
		細胞生物学		2	※環
		地学Ⅰ	2		
		地学Ⅱ	2		
		地学実験	1		
		物理化学		2	
		生物化学		2	※食
		生化学実験		1	※食
		代謝工学		2	
		放射化学		2	
		人体生理学		2	※食
		環境工学		2	※環
		合成生物学		2	※環
		微生物学		2	
		発酵学		2	
		食品物理学		2	※食
		理科教育法Ⅰ		2	
		理科教育法Ⅱ		2	
		備考の※食は食品生命科学科のみ、※環は環境生命科学科のみ、無印は両学科共通			

高一種免 (理科)	大学が独自に 設定する科目				最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」について、併せて12単位以上を修得
	教職の基礎的理解に関する科目	教職論 教育原理 教育心理学 教育社会学 特別支援教育 教育課程論	2 2 2 2 1 1		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動論 教育方法 教育における情報通信技術の活用 生徒指導・進路指導論 学校カウンセリング	2 1 1 1 2 2		
	教育実践に関する科目	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教職実践演習(高)	2 1 2		
	教職関連科目	日本国憲法 身体運動科学A 身体運動科学B オーラルコミュニケーションⅠ オーラルコミュニケーションⅡ 食品生命情報科学 情報科学	2 1 1 2 2	2 2	身体運動科学はA又はBのいずれかを1科目を受講すること 食品生命科学科は食品生命情報科学を、環境生命科学科は情報科学をそれぞれ受講すること

【食品生命科学科 教育課程年次配当図】

◎ 一必修
無印＝選択

(三)は三学期合同授業
(集)は集中講義

(合)は栄養生命科学科または環境生命科学科との合同授業
数字は単位数

令和8年度入学生用

	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学共通科目	身体運動科学A 14単位のうち、1つをおかき、科目群より2単元以上を必ず履修すること。14単位のうち、1単位を必ず履修すること。							
14単位以上	2							
学部基礎科目	◎化学 I (三) 2 ◎食品栄養調理学概論Ⅱ(三) 2							
必修	◎化学実験(三) 1							
22単位	◎生物学 I (三) 2 ◎生物学実験(三) 1 ◎物理学 I (三) 2 ◎食品栄養調理学概論Ⅰ(三) 2 ◎基礎統計学(三) 1 ◎食品栄養科学入門(三) 1							
専門科目	◎オーラルコミュニケーションⅡ(三) 1 ◎リスニングⅡ(三) 1 ◎情報科学演習 1 ◎食品学総論(合) 2 ◎生物化学 2 ◎物理学実験 1 化学Ⅱ(三) 1 生物学Ⅱ(三) 2 物理学Ⅱ(三) 1 人体生理学 2		◎オーラルコミュニケーションⅢ(三) 1 ◎TOEIC英語Ⅰ(三) 1 ◎食品学総論(合) 2 ◎有機化学Ⅰ(合) 2 ◎食品分析化学(合) 2 ◎微生物学(合) 2 ◎生化学実験 1 ◎物理化学(合) 2 ◎食品物理学 2 ◎酵素学(三) 2 放射化学(三) 2 環境工学(合) 2 地学Ⅰ(合) 2		◎オーラルコミュニケーションⅣ(三) 1 ◎TOEIC英語Ⅱ(三) 1 ◎栄養学総論(合) 2 ◎食品化学実験 2 ◎有機化学Ⅱ(合) 2 ◎発酵学(合) 2 ◎免疫学(三) 1 ◎分子生物学(合) 2 ◎食品衛生学Ⅰ(合) 2 ◎数学(合) 2 ◎応用統計学(三) 2 食料経済(三) 2 代辦工学(合) 2 循環資源論(合) 2 食料生産学(合) 2		◎卒業研究 2	
必修	分析化学(合) 2 植物学(合) 1 食品マーケティング論 1 基礎数学(合)* 2		◎食品化学Ⅰ(合) 2 ◎食品分析化学(合) 2 ◎微生物学(合) 2 ◎生化学実験 1 ◎物理化学(合) 2 ◎食品物理学 2 ◎酵素学(三) 2 放射化学(三) 2 環境工学(合) 2 地学Ⅰ(合) 2		◎有機化学Ⅲ 2 ◎食品工学Ⅰ 2 ◎食品プロセス学 2 ◎食品包装論(集) 2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) 2 ◎食品生命科学実験Ⅰ 2 ◎食品生命科学実験Ⅱ 2 ◎食品生命情報科学 2 栄養化学 2 天然物化学(合) 2 蛋白質工学 1 食品機能学 1 インターンシップ(合、集) 1		◎技術者倫理 2 ◎バイオインフォマティクス 1 ◎食品生命科学実験Ⅲ 2 ◎食品生命科学実験Ⅳ 2 ◎英語で学ぶ食品生命科学 2 機器分析学 2 地学Ⅱ(合) 2	
74単位	◎情報科学演習 1 分析化学(合) 2 植物学(合) 1 食品マーケティング論 1 基礎数学(合)* 2		◎食品学総論(合) 2 ◎生物化学 2 ◎物理学実験 1 化学Ⅱ(三) 1 生物学Ⅱ(三) 2 物理学Ⅱ(三) 1 人体生理学 2		◎有機化学Ⅲ 2 ◎食品工学Ⅰ 2 ◎食品プロセス学 2 ◎食品包装論(集) 2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) 2 ◎食品生命科学実験Ⅰ 2 ◎食品生命科学実験Ⅱ 2 ◎食品生命情報科学 2 栄養化学 2 天然物化学(合) 2 蛋白質工学 1 食品機能学 1 インターンシップ(合、集) 1		◎卒業研究 2	
選択	◎情報科学演習 1 分析化学(合) 2 植物学(合) 1 食品マーケティング論 1 基礎数学(合)* 2		◎食品学総論(合) 2 ◎生物化学 2 ◎物理学実験 1 化学Ⅱ(三) 1 生物学Ⅱ(三) 2 物理学Ⅱ(三) 1 人体生理学 2		◎有機化学Ⅲ 2 ◎食品工学Ⅰ 2 ◎食品プロセス学 2 ◎食品包装論(集) 2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) 2 ◎食品生命科学実験Ⅰ 2 ◎食品生命科学実験Ⅱ 2 ◎食品生命情報科学 2 栄養化学 2 天然物化学(合) 2 蛋白質工学 1 食品機能学 1 インターンシップ(合、集) 1		◎卒業研究 2	
20単位以上	◎情報科学演習 1 分析化学(合) 2 植物学(合) 1 食品マーケティング論 1 基礎数学(合)* 2		◎食品学総論(合) 2 ◎生物化学 2 ◎物理学実験 1 化学Ⅱ(三) 1 生物学Ⅱ(三) 2 物理学Ⅱ(三) 1 人体生理学 2		◎有機化学Ⅲ 2 ◎食品工学Ⅰ 2 ◎食品プロセス学 2 ◎食品包装論(集) 2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) 2 ◎食品生命科学実験Ⅰ 2 ◎食品生命科学実験Ⅱ 2 ◎食品生命情報科学 2 栄養化学 2 天然物化学(合) 2 蛋白質工学 1 食品機能学 1 インターンシップ(合、集) 1		◎卒業研究 2	
小計	◎情報科学演習 1 分析化学(合) 2 植物学(合) 1 食品マーケティング論 1 基礎数学(合)* 2		◎食品学総論(合) 2 ◎生物化学 2 ◎物理学実験 1 化学Ⅱ(三) 1 生物学Ⅱ(三) 2 物理学Ⅱ(三) 1 人体生理学 2		◎有機化学Ⅲ 2 ◎食品工学Ⅰ 2 ◎食品プロセス学 2 ◎食品包装論(集) 2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) 2 ◎食品生命科学実験Ⅰ 2 ◎食品生命科学実験Ⅱ 2 ◎食品生命情報科学 2 栄養化学 2 天然物化学(合) 2 蛋白質工学 1 食品機能学 1 インターンシップ(合、集) 1		◎卒業研究 2	
84単位以上	◎情報科学演習 1 分析化学(合) 2 植物学(合) 1 食品マーケティング論 1 基礎数学(合)* 2		◎食品学総論(合) 2 ◎生物化学 2 ◎物理学実験 1 化学Ⅱ(三) 1 生物学Ⅱ(三) 2 物理学Ⅱ(三) 1 人体生理学 2		◎有機化学Ⅲ 2 ◎食品工学Ⅰ 2 ◎食品プロセス学 2 ◎食品包装論(集) 2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) 2 ◎食品生命科学実験Ⅰ 2 ◎食品生命科学実験Ⅱ 2 ◎食品生命情報科学 2 栄養化学 2 天然物化学(合) 2 蛋白質工学 1 食品機能学 1 インターンシップ(合、集) 1		◎卒業研究 2	
卒業必要単位数には含まない	◎情報科学演習 1 分析化学(合) 2 植物学(合) 1 食品マーケティング論 1 基礎数学(合) 2		◎食品学総論(合) 2 ◎生物化学 2 ◎物理学実験 1 化学Ⅱ(三) 1 生物学Ⅱ(三) 2 物理学Ⅱ(三) 1 人体生理学 2		◎有機化学Ⅲ 2 ◎食品工学Ⅰ 2 ◎食品プロセス学 2 ◎食品包装論(集) 2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) 2 ◎食品生命科学実験Ⅰ 2 ◎食品生命科学実験Ⅱ 2 ◎食品生命情報科学 2 栄養化学 2 天然物化学(合) 2 蛋白質工学 1 食品機能学 1 インターンシップ(合、集) 1		◎卒業研究 2	
合計	◎情報科学演習 1 分析化学(合) 2 植物学(合) 1 食品マーケティング論 1 基礎数学(合)* 2		◎食品学総論(合) 2 ◎生物化学 2 ◎物理学実験 1 化学Ⅱ(三) 1 生物学Ⅱ(三) 2 物理学Ⅱ(三) 1 人体生理学 2		◎有機化学Ⅲ 2 ◎食品工学Ⅰ 2 ◎食品プロセス学 2 ◎食品包装論(集) 2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) 2 ◎食品生命科学実験Ⅰ 2 ◎食品生命科学実験Ⅱ 2 ◎食品生命情報科学 2 栄養化学 2 天然物化学(合) 2 蛋白質工学 1 食品機能学 1 インターンシップ(合、集) 1		◎卒業研究 2	
130単位以上	◎情報科学演習 1 分析化学(合) 2 植物学(合) 1 食品マーケティング論 1 基礎数学(合)* 2		◎食品学総論(合) 2 ◎生物化学 2 ◎物理学実験 1 化学Ⅱ(三) 1 生物学Ⅱ(三) 2 物理学Ⅱ(三) 1 人体生理学 2		◎有機化学Ⅲ 2 ◎食品工学Ⅰ 2 ◎食品プロセス学 2 ◎食品包装論(集) 2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) 2 ◎食品生命科学実験Ⅰ 2 ◎食品生命科学実験Ⅱ 2 ◎食品生命情報科学 2 栄養化学 2 天然物化学(合) 2 蛋白質工学 1 食品機能学 1 インターンシップ(合、集) 1		◎卒業研究 2	

3年次への進級には、全学共通科目および学部基礎科目の最低必要修得単位数を修得する必要がある。このうち、5単位以上が未修得の者は原則として留年となる。
4年次への進級には、最低必要修得単位数のうち3年次までに配当された科目を修得する必要がある。このうち、10単位以上を未修得の者は原則として留年となる。

【環境生命科学科 教育課程年次配当図】

◎ 一必修
無印＝選択

(三)は三学科合同授業

(合)は食品生命科学科との合同授業

令和8年度入学生用

	1 年		2 年		3 年		4 年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
全学共通科目									
身体運動科学A									
8 単位以上		2							
学部基礎科目		2							
必修		1							
22 単位		2							
◎生物学 I (三)		1							
◎生物学実験 (三)		1							
◎物理学 I (三)		2							
◎食品栄養環境科学概論 I (三)		2							
◎基礎統計学 (三)		1							
◎食品栄養科学入門 (三)		1							
◎オーラルコミュニケーション I (三)	1	1	◎オーラルコミュニケーション II (三)	1	◎オーラルコミュニケーション III (三)	1	◎オーラルコミュニケーション IV (三)	1	
◎リスニング I (三)	1	1	◎リスニング II (三)	1	◎TOEIC 英語 I (三)	1	◎TOEIC 英語 II (三)	1	
◎分析化学 (合)	2	◎環境学総論	2	◎細胞生物学	2	◎数学 (合)	2	◎環境生命科学実験 II	2
◎植物学 (合)	1	◎基礎生化学	2	◎健康環境生命科学実験	1	◎環境生命科学実験 I	2	◎環境生命科学実験 III	2
◎情報科学	2	◎物理学実験 (合)	1	◎物理化学 (合)	2	◎応用統計学 (三)	2	◎環境生命科学実験 IV	2.5
基礎数学 (合) *	2	◎食品学総論 (合)	2	◎植物生理学	2	◎食品衛生学 I (合)	2	◎Environmental and Life Sciences	2
		化学 II (三)	2	◎動物生理学	2	◎環境有機化学	2	代調工学 (合)	2
		生物学 II (三)	2	◎環境科学英語 II	2	◎環境分析化学	2	栄養学総論 (合)	2
		物理学 II (三)	2	◎微生物学 (合)	2	◎食料生産学	2	食品衛生学 II (合)	2
		ヒューマンエコロニー	2	反応有機化学	2	植物環境学	2	毒理学	2
				合成生物学	2	発酵学 (合)	2	環境工学 (合)	2
				食品化学 (三)	2	食品化学 (三)	2	環境計量論	2
				放射化学 (三)	2	免疫学 (三)	2	天然物化学 (合)	2
				環境微生物学	2	食料経済 (三)	2	醸造学 (三)	2
				地学 I (合)	2	環境応答学	2	インターンシップ (合, 集)	1
					2	循環資源論 (合)	2	食品生命情報科学 (合)	2
				地学実験 (合, 集)					
				◎環境科学英語 I	1.5	◎ワールドワーク (集)	1		1
				海外研修英語 (集)					
合計									
124 単位以上									

*卒業必要単位数には含まない
3年次への進級には、全学共通科目および学部基礎科目の最低必要修得単位数を修得する必要がある。このうち、5単位以上が未修得の者は原則として留年となる。
4年次への進級には、最低必要修得単位数のうち3年次までに配当された科目を修得する必要がある。このうち、10単位以上を未修得の者は原則として留年となる。

【栄養教諭教育課程年次配当図】

令和8年度以降入学生用

年次		時期		具体的な科目名称		
				教育の基礎的理解に関する科目等	栄養に係る教育に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目
1年次	前期			身体運動科学A(通年)		
				オールラコミュニケーションⅠ		
				情報科学		
	後期	教職論		身体運動科学A(通年)		
			オールラコミュニケーションⅡ			
2年次	前期	教育原理		身体運動科学B(通年)		
		教育心理学				
	後期	教育社会学		日本国憲法		
		教育方法		身体運動科学B(通年)		
		教育における情報通信技術の活用				
2～3年次	集中		学校栄養教育論(注1)			
3年次	前期	生徒指導				
	後期	学校カウンセリング	学校栄養教育実践論(注2)			
		特別支援教育				
		総合学習の指導法(注3)				
	集中	教育課程・特別活動論				
		道徳指導論				
4年次	前期	栄養教育実習事前事後指導				
		栄養教育実習				
	後期	教職実践演習(栄養教諭)				

注1: 開講年度については、ガイダンス時に説明します。

注2: 一部集中開講

注3: 後期土曜日隔週開講

【理科教諭教育課程年次配当図(食品生命科学科)】

令和8年度以降入学生用

履修年次		具体的な科目名称			
		教育の基礎的理解に関する科目等	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6Iに関する科目
年次	時期				
1年次	前期		物理学Ⅰ		身体運動科学A(通年)
			化学Ⅰ		オーラルコミュニケーションⅠ
			化学実験		
			生物学Ⅰ		
			生物学実験		
	後期	教職論	物理学Ⅱ		身体運動科学A(通年)
			物理学実験		オーラルコミュニケーションⅡ
			化学Ⅱ		
			生物化学		
			生物学Ⅱ		
		人体生理学			
2年次	前期	教育原理	微生物学		身体運動科学B(通年)
		教育心理学	地学Ⅰ		
			生化学実験		
			食品物理学		
			物理化学		
			放射化学		
	集中		地学実験		
	後期	教育社会学	分子生物学		身体運動科学B(通年)
		教育方法	発酵学		日本国憲法
		教育における情報通信技術の活用	代謝工学		
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	理科教育法Ⅰ		食品生命情報科学
	集中	教育課程論	地学実験		
		特別活動論			
	後期	特別支援教育	理科教育法Ⅱ		
		学校カウンセリング	地学Ⅱ		
		総合的な学習の時間の指導法(注1)			
4年次	前期	教育実習Ⅰ(注2)			
		教育実習Ⅱ(注3)			
	後期	教職実践演習(高)			

注1:後期土曜日隔週開講

注2:別途説明する。

注3:教育実習Ⅰの事前事後指導

【理科教諭教育課程年次配当図(環境生命科学科)】

令和8年度以降入学生用

履修年次		具体的な科目名称			
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目
1年次	前期		物理学 I		オーラルコミュニケーション I
			化学 I		情報科学
			化学実験		
			分析化学		
			生物学 I		
			生物学実験		
			植物学		
	後期	教職論	物理学 II		オーラルコミュニケーション II
			物理学実験		
			化学 II		
		生物学 II			
通年				身体運動科学A	
2年次	前期	教育原理	微生物学		
		教育心理学	細胞生物学		
			合成生物学		
			地学 I		
			物理化学		
			放射化学		
	集中		地学実験		
	後期	教育社会学	発酵学		日本国憲法
		教育方法			
		教育における情報通信技術の活用			
通年				身体運動科学B	
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	環境工学		
			理科教育法 I		
	集中	教育課程論	地学実験		
		特別活動論			
	後期	特別支援教育	代謝工学		
		学校カウンセリング	理科教育法 II		
	総合的な学習の時間の指導法(注1)	地学 II			
4年次	前期	教育実習 I (注2)			
		教育実習 II (注3)			
	後期	教職実践演習(高)			

注1: 後期土曜日隔週開講
 注2: 別途説明する。
 注3: 教育実習 I の事前事後指導

食品生命科学研究カリキュラムツリー

○一必修 (三)は三学科合同授業 (合)は二学科合同授業

授業科目の流れとディプロマ・ポリシーの関係

無印一選択 (集)は集中講義

○一必修 (三)は三学科合同授業 (合)は二学科合同授業

(全)は全学共通科目

	1年生		2年生		3年生		4年生		単位	
	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目		
1	ディプロマ・ポリシー 幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる食品科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。	2 ◎化学Ⅰ(三) ◎生物学Ⅰ(三) ◎物理学Ⅰ(三) ◎食品学総論(合) ◎化学実験(三) ◎生物学実験(三) ◎情報科学演習 分析化学(合) 植物学(合) 化学Ⅱ(三) 生物学Ⅱ(三) 物理学Ⅱ(三)	2 ◎有機化学Ⅰ(合) ◎物理化学(合) ◎有機化学Ⅱ(合) ◎発酵学(合) ◎数学(合) 地学Ⅰ(合) 地学実験(合、集) 循環資源論(合)	2 ◎食品分析化学(合) ◎酵素学(三) ◎微生物学(三) ◎食品化学(三) ◎食品物理学 ◎分子生物学(合) ◎免疫学(三) ◎栄養学総論(合) ◎栄養生実験 ◎食品化学実験 食料生産学(合) 環境工学(合) 代謝工学(合)	2 ◎食品プロセス学 ◎食品包装論(集) ◎食品工学Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅳ 天然物化学(合) 蛋白質工学 食品機能学 栄養化学 機器分析学	2 ◎食品生命情報科学 ◎バイオインフォマティクス ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ ◎食品生命科学実験Ⅳ	2 ◎英語で学ぶ食品生命科学 海外研修英語(集)	2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ インターンシップ(合、集)	2 ◎食品工学Ⅰ ◎技術者倫理 インターンシップ(合、集)	8
2	食品科学に関する広範な知識と関連技術に基づき、食品に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。	2 ◎生物学 ◎食品学総論(合) 人体生理学	2 ◎基礎統計学(三) ◎数理・データサイエンス・AI入門(全)	2 ◎生物化学 ◎食品学総論(合) 人体生理学	2 ◎食品分析化学(合) ◎酵素学(三) ◎微生物学(三) ◎食品化学(三) ◎食品物理学 ◎分子生物学(合) ◎免疫学(三) ◎栄養学総論(合) ◎栄養生実験 ◎食品化学実験 食料生産学(合) 環境工学(合) 代謝工学(合)	2 ◎食品生命情報科学 ◎バイオインフォマティクス ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ ◎食品生命科学実験Ⅳ	2 ◎英語で学ぶ食品生命科学 海外研修英語(集)	2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ インターンシップ(合、集)	2 ◎食品工学Ⅰ ◎技術者倫理 インターンシップ(合、集)	8
3	食品科学に関する知識・技術・情報自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。	1 ◎基礎統計学(三) ◎数理・データサイエンス・AI入門(全)	1 ◎基礎統計学(三)	1 ◎食品生命情報科学 ◎バイオインフォマティクス ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ ◎食品生命科学実験Ⅳ	1 ◎食品生命情報科学 ◎バイオインフォマティクス ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ ◎食品生命科学実験Ⅳ	1 ◎英語で学ぶ食品生命科学 海外研修英語(集)	1 ◎食品衛生学Ⅱ(合) ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ インターンシップ(合、集)	1 ◎食品工学Ⅰ ◎技術者倫理 インターンシップ(合、集)	8	
4	食品科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。	1 ◎オーラルコミュニケーションⅠ(三) ◎リスニングⅠ(三) ◎オーラルコミュニケーションⅡ(三) ◎リスニングⅡ(三)	1 ◎オーラルコミュニケーションⅢ(三) ◎TOEIC英語Ⅰ(三) ◎オーラルコミュニケーションⅣ(三) ◎TOEIC英語Ⅱ(三)	1 ◎オーラルコミュニケーションⅢ(三) ◎TOEIC英語Ⅰ(三) ◎オーラルコミュニケーションⅣ(三) ◎TOEIC英語Ⅱ(三)	1 ◎食品衛生学Ⅱ(合) ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ インターンシップ(合、集)	1 ◎英語で学ぶ食品生命科学 海外研修英語(集)	1 ◎食品衛生学Ⅱ(合) ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ インターンシップ(合、集)	1 ◎食品工学Ⅰ ◎技術者倫理 インターンシップ(合、集)	8	
5	豊かな人間性と食の安全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。	1 ◎食品栄養科学入門(三) ◎物理学実験(合) 食品マーケティング論	1 ◎食品衛生学Ⅰ(合)	1 ◎食品衛生学Ⅱ(合) ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ インターンシップ(合、集)	1 ◎食品衛生学Ⅱ(合) ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ インターンシップ(合、集)	1 ◎英語で学ぶ食品生命科学 海外研修英語(集)	1 ◎食品衛生学Ⅱ(合) ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ インターンシップ(合、集)	1 ◎食品工学Ⅰ ◎技術者倫理 インターンシップ(合、集)	8	
6	食品技術者としての社会的役割と責任を理解し、食品関連産業の発展に貢献することができる。	2 ◎食品・栄養・環境科学概論Ⅰ(三) ◎食品・栄養・環境科学概論Ⅱ(三)	2 放射化学(三) 食料経済(三)	2 ◎食品工学Ⅰ ◎技術者倫理 インターンシップ(合、集)	2 ◎食品工学Ⅰ ◎技術者倫理 インターンシップ(合、集)	2 ◎英語で学ぶ食品生命科学 海外研修英語(集)	2 ◎食品衛生学Ⅱ(合) ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ インターンシップ(合、集)	2 ◎食品工学Ⅰ ◎技術者倫理 インターンシップ(合、集)	8	

	1年生	2年生	3年生	4年生	単位
1	<p>◎食品栄養科学入門(三)</p> <p>◎食品栄養環境科学概論Ⅰ(三)</p> <p>◎食品栄養環境科学概論Ⅱ(三)</p> <p>◎化学Ⅰ(三)</p> <p>◎生物学Ⅰ(三)</p> <p>◎物理学Ⅰ(三)</p> <p>◎化学実験(三)</p> <p>◎生物学実験(三)</p> <p>◎基礎統計学(三)</p> <p>◎情報科学</p> <p>◎教理・データサイエンス・AI入門(全)</p> <p>化学Ⅱ(三)</p> <p>生物学Ⅱ(三)</p> <p>物理学Ⅱ(三)</p>	<p>◎分子生物学(合)</p> <p>◎免疫学(三)</p> <p>◎微生物学</p> <p>◎応用統計学(三)</p> <p>放射化学(三)</p> <p>有機化学Ⅰ(合)</p> <p>有機化学Ⅱ(合)</p> <p>酵素学(三)</p>	<p>◎栄養生命科学研究</p>	<p>◎卒業研究</p>	8
2	<p>◎解剖生理学</p> <p>◎生化学Ⅰ</p> <p>◎食品学総論</p> <p>◎調理科学</p> <p>◎生化学Ⅱ</p> <p>◎健康管理概論</p> <p>◎臨床病態学</p> <p>◎栄養教育論Ⅰ</p> <p>◎食品衛生学</p> <p>◎食材料学</p> <p>◎食品分析化学(合)</p> <p>◎食品化学(三)</p> <p>◎運動生理学(集)</p> <p>◎病理学</p> <p>◎食料経済(三)</p>	<p>◎健康管理概論</p> <p>◎臨床病態学</p> <p>◎栄養教育論Ⅰ</p> <p>◎食品衛生学</p> <p>◎食材料学</p> <p>◎食品分析化学(合)</p> <p>◎食品化学(三)</p> <p>◎運動生理学(集)</p> <p>◎病理学</p> <p>◎食料経済(三)</p>	<p>◎公衆衛生学</p> <p>◎臨床栄養学</p> <p>◎臨床栄養管理Ⅰ</p> <p>◎臨床栄養管理Ⅱ</p> <p>◎公衆栄養Ⅰ</p> <p>◎公衆栄養Ⅱ</p> <p>◎栄養疫学</p> <p>◎臨床薬理学</p> <p>◎データサイエンス・AI</p> <p>◎栄養生命科学研究</p>	<p>◎卒業研究</p>	8
3	<p>◎調理学実習</p>	<p>◎生化学実験</p> <p>◎基礎栄養学</p> <p>◎応用栄養学Ⅰ</p> <p>◎食品学実験</p> <p>◎調理科学実験</p>	<p>◎応用栄養学Ⅱ</p> <p>◎栄養教育論Ⅱ</p> <p>◎栄養機能論</p> <p>◎公衆衛生学実験</p> <p>◎解剖生理学実験</p> <p>◎微生物学実験</p> <p>◎食品衛生学実験</p> <p>◎栄養学実験</p> <p>◎栄養化学実験</p> <p>◎栄養生命科学研究</p>	<p>◎卒業研究</p>	8
4	<p>◎リスニングⅠ(三)</p> <p>◎リスニングⅡ(三)</p> <p>◎オーラルコミュニケーションⅠ(三)</p> <p>◎オーラルコミュニケーションⅡ(三)</p> <p>◎保健医療福祉論</p>	<p>◎TOEIC英語Ⅰ(三)</p> <p>◎TOEIC英語Ⅱ(三)</p> <p>◎オーラルコミュニケーションⅢ(三)</p> <p>◎オーラルコミュニケーションⅣ(三)</p>	<p>栄養生命科学英語</p> <p>◎栄養生命科学研究</p>	<p>◎卒業研究</p>	8
5	<p>創造性あふれる豊かな人間性と栄養科学の専門家としての倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。</p>	<p>◎給食経営管理論Ⅰ</p> <p>◎給食経営管理論Ⅱ</p> <p>◎給食経営管理演習</p> <p>◎栄養カウンセリング論</p>	<p>◎応用栄養学実習</p> <p>◎臨床栄養学実習</p> <p>◎治療食実習</p> <p>◎栄養教育論実習</p> <p>◎公衆栄養学実習</p> <p>◎給食経営管理実習</p> <p>◎栄養生命科学研究</p>	<p>◎卒業研究</p>	8
6	<p>管理栄養士として人間の健康と長寿を支える栄養に関わる諸問題の解決に貢献することができる。</p>		<p>◎総合演習</p> <p>◎校外実習(給食の運営)</p> <p>◎臨床実習(臨床栄養学)</p> <p>◎栄養生命科学研究</p>	<p>◎卒業研究(公衆栄養学)</p> <p>◎卒業研究</p>	1 8

	1年生	2年生	3年生	4年生	単位	
1	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>◎化学Ⅰ(三) ◎生物学Ⅰ(三) ◎物理学Ⅰ(三) ◎食品栄養環境科学概論Ⅰ(三) ◎基礎統計学(三) ◎食品栄養科学入門(三) 基礎数学(合) ◎食品栄養環境科学概論Ⅱ(三) ◎環境学総論 食品学総論(合) 化学Ⅱ(三) 生物学Ⅱ(三) 物理学Ⅱ(三) ◎数理・データサイエンス・AI入門</p>	<p>◎数学(合) ◎応用統計学(三) ◎物理学(合) 地学Ⅰ(合) 地学実験(合,集)</p>	<p>食品生命情報科学(合) 地学Ⅱ(合)</p>	4		
2	<p>幅広い教養を身につけた上で、食と健康に関わる環境科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。</p>	<p>◎分析化学(合) ◎基礎生化学</p>	<p>◎細胞生物学 ◎植物生理学 ◎動物生理学 植物環境学 微生物学(合) 反応有機化学 食品化学(三) 食品衛生学Ⅰ(合)</p>	<p>◎環境生命科学実験Ⅱ ◎環境生命科学実験Ⅲ ◎環境生命科学実験Ⅳ ◎環境生命科学研究</p>	10.5	◎卒業研究
3	<p>食と健康に関わる環境分野の知識と技術に基づき、環境に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。</p>	<p>◎化学実験(三) ◎生物学実験(三) ◎植物学(合) ◎情報科学 ◎物理学実験(合)</p>	<p>◎基礎環境生命科学実験 ◎環境生命科学実験Ⅰ ◎フィールドワーク(集)</p>	<p>◎環境生命科学実験Ⅱ ◎環境生命科学実験Ⅲ ◎環境生命科学実験Ⅳ ◎環境生命科学研究 食品生命情報科学(合)</p>	12.5	◎卒業研究
4	<p>環境に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。</p>	<p>◎オーラルコミュニケーションⅠ(三) ◎リスニングⅠ(三) ◎オーラルコミュニケーションⅡ(三) ◎リスニングⅡ(三) ◎環境科学英語</p>	<p>◎オーラルコミュニケーションⅢ(三) ◎TOEIC英語Ⅰ(三) ◎環境科学英語Ⅱ ◎オーラルコミュニケーションⅣ(三) ◎TOEIC英語Ⅱ(三)</p>	<p>◎Environmental and Life Sciences ◎環境生命科学英語</p>	3	
5	<p>豊かな人間性と環境保全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。</p>	<p>ヒューマンエコロジー</p>	<p>インターンシップ(合,集) ◎技術者倫理</p>	3		
6	<p>環境計量と環境・生体影響評価に関する知識や技術を修得し、環境保全や食の生産に貢献することができる。</p>	<p>合成生物学 環境有機化学 環境分析化学 食料生産学 環境応答学 放射化学(三) 環境微生物学 発酵学(合) 免疫学(三) 食料経済(三) 循環資源論(合)</p>	<p>毒理学 環境工学 環境計量論 食品衛生学Ⅱ(合) 天然物化学(合) 酵素学(三) 代調工学(合) 栄養学総論(合)</p>	16		

JABEE の学習・教育目標と各科目との関係

(令和 8 年度入学生用、下線は選択科目)

*: ◎は主要な関連を, ○は副次的な関連を意味している。

(A) 食に関する科学技術の発展が社会生活や文化に与える影響について、地球規模で捉えることができる人材を育成する。

◎: 食品・栄養・環境科学概論Ⅰ、食品・栄養・環境科学概論Ⅱ、放射化学、

○: 食品栄養科学入門、食品化学、発酵学、技術者倫理、英語で学ぶ食品生命科学、食品機能学
食料生産学、食料経済、植物学、環境工学、循環資源論、食品マーケティング論

(B) 食品技術の社会や健康に対する効果と、食品技術者の社会に対する責任を理解させる。

◎: 技術者倫理

○: 食品・栄養・環境科学概論Ⅰ、食品・栄養・環境科学概論Ⅱ、食品化学、食品工学Ⅰ

食品プロセス学、食品包装論、発酵学、食品機能学、放射化学、食料経済、インターンシップ

(C) 食品栄養科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を培う。

◎: 化学Ⅰ、化学実験、生物学Ⅰ、生物学実験、物理学Ⅰ、物理学実験、食品生命情報科学
情報科学演習、食品学総論、有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ、食品工学Ⅰ、食品工学Ⅱ
発酵学、物理化学、数学、化学Ⅱ、生物学Ⅱ、物理学Ⅱ、分析化学、植物学、循環資源論
基礎数学*

*: 卒業必要単位数に含めない

○: 基礎統計学、食品分析化学、分子生物学、生物化学、応用統計学、食品物理学

酵素学、バイオインフォマティクス、機器分析学、天然物化学、代謝工学、食料生産学
人体生理学、放射化学

(D) 食品栄養科学と生命科学に関する広範な知識と関連技術を駆使して、問題を解決できる能力を養う。

◎: 食品学総論、栄養学総論、食品化学、食品化学実験、食品プロセス学、食品分析化学
食品包装論、微生物学、免疫学、分子生物学、食品衛生学Ⅰ、食品衛生学Ⅱ、生物化学
生化学実験、食品物理学、酵素学、バイオインフォマティクス、食品生命科学実験Ⅳ
食品機能学、食料生産学、人体生理学、栄養化学、機器分析学、天然物化学、代謝工学
蛋白質工学、環境工学

○: 物理学Ⅰ、食品・栄養・環境科学概論Ⅰ、食品・栄養・環境科学概論Ⅱ、物理化学
食品生命情報科学、食品生命科学実験Ⅰ、食品生命科学実験Ⅱ、食品生命科学実験Ⅲ
卒業研究、化学Ⅱ、物理学Ⅱ、放射化学、植物学
インターンシップ、食品マーケティング論

(E) 食に関する技術的・社会的問題を解決する方法を企画・提案し、チームで遂行する能力を養う。

◎:食品栄養科学入門、食品生命科学実験Ⅰ、食品生命科学実験Ⅱ、食品生命科学実験Ⅲ
英語で学ぶ食品生命科学、食品マーケティング論

○:食品工学Ⅰ、食品衛生学Ⅱ、技術者倫理、栄養化学、食料経済、インターンシップ

(F) 食品技術者として、論理的な記述・発表・質疑応答・討論ができ、また英語による基礎的なコミュニケーションができる能力を養う。

◎:食品栄養科学入門、基礎統計学、オーラルコミュニケーションⅠ
オーラルコミュニケーションⅡ、オーラルコミュニケーションⅢ
オーラルコミュニケーションⅣ、リスニングⅠ、リスニングⅡ、TOEIC 英語Ⅰ、TOEIC 英語Ⅱ
応用統計学、英語で学ぶ食品生命科学、海外研修英語

○:情報科学演習、技術者倫理、卒業研究、インターンシップ

(G) 食に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用する能力を養う。

◎:食品生命情報科学、バイオインフォマティクス、卒業研究

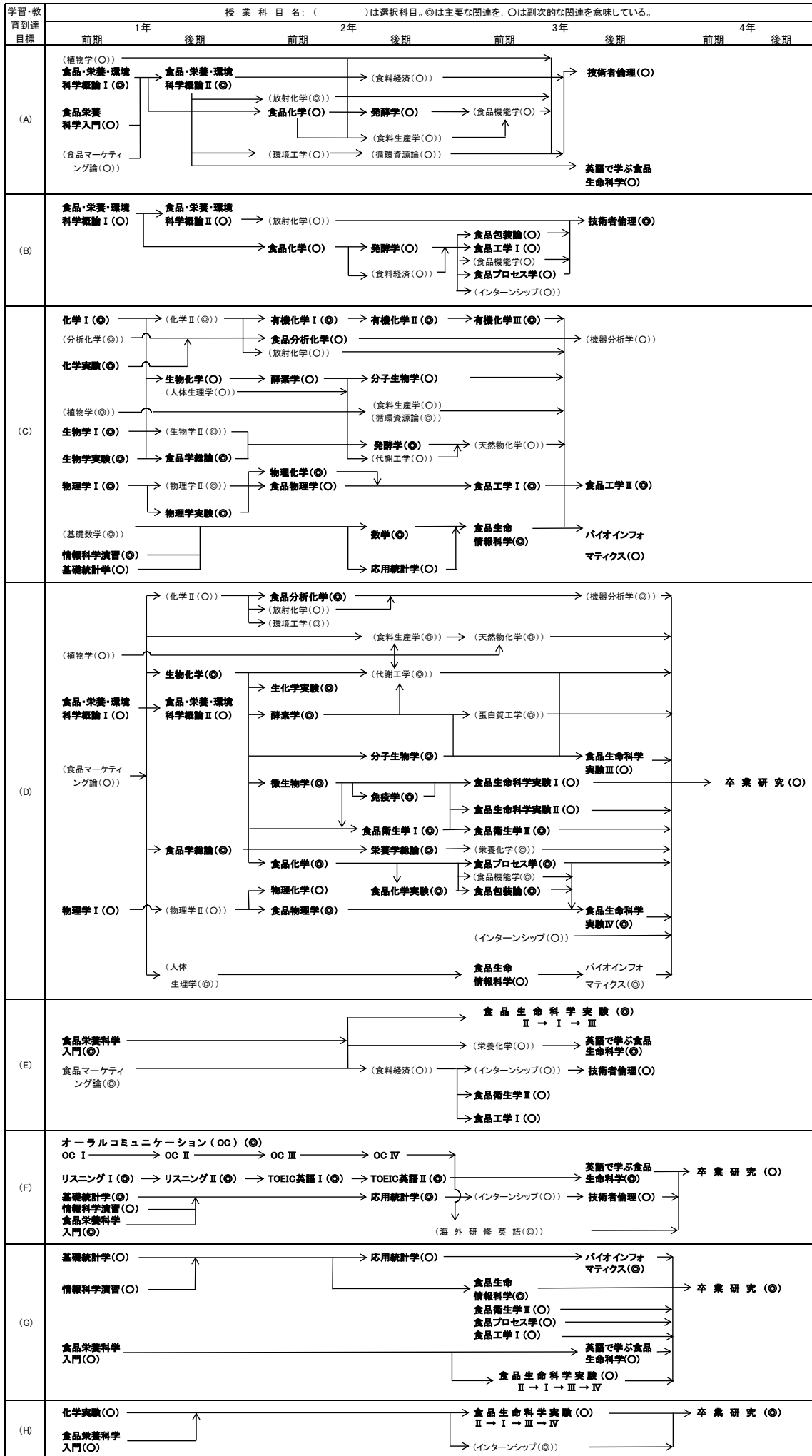
○:情報科学演習、基礎統計学、食品栄養科学入門、食品工学Ⅰ、食品プロセス学、食品衛生学Ⅱ
応用統計学、食品生命科学実験Ⅰ、食品生命科学実験Ⅱ、食品生命科学実験Ⅲ
食品生命科学実験Ⅳ、英語で学ぶ食品生命科学

(H) 食品技術者として計画的に仕事を遂行し、協調性や指導力を発揮できる人材を育成する。

◎:卒業研究、インターンシップ

○:化学実験、食品栄養科学入門、食品生命科学実験Ⅰ、食品生命科学実験Ⅱ
食品生命科学実験Ⅲ、食品生命科学実験Ⅳ

JABEEの学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ(令和8年度入学生用)



静岡県立大学食品栄養科学部履修細則

平成19年4月1日 細則第13号

改正 令和8年4月1日

第1章 目的

(目的)

第1条 この細則は、静岡県立大学学則第42条第2項の規定に基づき、授業科目の履修方法等に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2章 履修の届出

(履修登録)

第2条 学生は、定められた期間内にその学期において履修しようとする授業科目を所定の方法（Web学生サービス支援システム）により登録しなければならない。

(同一時間重複履修の禁止)

第3条 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することはできない。

(既修得授業科目の再履修)

第4条 既に単位を取得した授業科目は、履修することができない。

第3章 試験及び成績の評価

(試験)

第5条 試験は、各学期末に期間を定めて行う。ただし、授業科目によっては随時行うことがある。

(成績の評価)

第6条 成績の評価は、試験の結果と平常の学習状況とを総合して授業科目担当教員がこれを行い、秀、優、良、可、不可の5区分とし、可以上を合格として所定の単位を与える。

2 履修を申告し、単位を修得しなかった授業科目は不可と判定する。

3 成績評価の基準は次のとおりとする。

評語	評価の基準
秀	100点～90点
優	89点～80点
良	79点～70点
可	69点～60点
不可	59点以下

4 卒業研究は、修学期間を通して行う研究について学位論文としてまとめ、その内容を論文発表会で発表し、評価基準に基づいて所定の単位を与える。

(単位認定報告書の提出)

第7条 担当教員は、試験終了後2週間以内に成績の評価を所定の方法（Web学生サービス支援システム）により行う。

(追試験)

第8条 次の理由で、試験を欠席した者については、追試験を行うことができる。

(1) 病気（ただし、医師の診断書を要する）

(2) 忌引（1、2親等に限り、死亡の日より1週間以内）

(3) 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

(4) その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

2 前項の事由により追試験を希望する者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に、所定の様式により学生室に届け出なければならない。

（再試験）

第9条 成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。ただし、やむを得ない事情により当該授業科目の担当教官が再試験の必要を認める場合は、これを行うことができる。

2 再試験の成績の評価は、原則として可以下とする。

（不正行為）

第10条 出席の登録や試験において不正行為を行った者には、当該科目のその年度の単位を与えない処分を行うほか、当該学期での全科目について単位を与えない処分や学則第57条第1項に基づく懲戒処分を行うことがある。

（再履修）

第11条 前期又は前年度において単位を修得できなかった授業科目については、後期又は後年度において再び履修して単位の修得を図ることができる。

第4章 授業科目及び履修方法

（開設授業科目）

第12条 開設する授業科目及び単位数は、学則第42条に定めるとおりとする。

（配当年次）

第13条 各授業科目の配当年次は、別に定める年次配当図のとおりとする。

（全学共通科目の履修方法）

第14条 全学共通科目の修得必要単位数は、次のとおりとする。なお、いずれも必修科目を含むものとする。

食品生命科学科	14単位
栄養生命科学科	14単位
環境生命科学科	8単位

（学部基礎科目の履修方法）

第15条 学部基礎科目は全て必修とし、その単位数は22単位である。

（専門教育科目の履修方法）

第16条 専門教育科目の修得必要単位数は、次のとおりとする。

食品生命科学科	必修科目	74単位
	選択科目	20単位以上
栄養生命科学科	必修科目	84単位
	選択科目	17単位以上
環境生命科学科	必修科目	52単位
	選択科目	42単位以上

ただし、入学年度以降に当該年度新生を対象として新規開講される選択科目については、当該科目の配当年次における履修を可能とする。修得した単位は、卒業に必要な修得単位数に算入できるものとする。

第5章 進級・卒業要件

（環境生命科学科の履修登録単位数の制限）

第17条 各年次に履修登録できる単位数は50単位以下とする。ただし、各学年末の成績上位5名については、その翌年次の履修制限を課さないこととする。

(3年次進級要件)

第18条 3年次に進級するためには、2年以上在学し、学則別表I、IIに定められた全学共通科目及び学部基礎科目の最低必要修得単位数を修得する必要がある。このうち5単位以上が未修得の者は原則として留年となる。

2 進級・留年の決定は、教授会の議を経て行う。

(4年次進級要件)

第19条 4年次に進級するためには、3年以上在学し、学則別表I、IIに定められている最低必要修得単位数のうち3年次までに配当された科目を修得する必要がある。このうち必修科目・選択科目併せて10単位以上を未修得の者は原則として留年となる。

2 進級・留年の決定は、教授会の議を経て行う。

(卒業要件)

第20条 卒業するためには、4年以上在学し、学則別表I、IIに定められている最低必要修得単位数を修得しなければならない。

2 第4年次において卒業要件を満たさず留年した者が、年度途中でその要件を満たした場合は、卒業できることがある。

3 卒業・留年の決定は、教授会の議を経て行う。

第6章 他学部授業科目の履修方法

(他学部授業科目の履修方法)

第21条 他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を得た上、当該学部長の許可を受けなければならない。

2 前項に基づいて履修した者には、審査のうえ単位の認定を行うが卒業必要単位数には算入しない。

3 第1項に定める許可願は、定められた期間内に所定の書式により学生室に提出するものとする。

第7章 単位互換等

(他の大学又は短期大学の授業科目の履修)

第22条 学則第39条第1項の規定に基づき、他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとするときは、指導教員の承認を受けた上で、所定の書式による履修登録願を別に定める期間内に学生室に提出しなければならない。

2 前項に基づいて履修した者には、審査の上単位の認定を行うが、卒業必要単位数には算入しない。

(大学以外の教育施設における学修)

第22条の2 学則第39条第2項に規定する本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる学修は次のとおりとする。

(1) 英語検定1級合格については、学部基礎科目英語において最大6単位とみなし、「秀」の単位認定を行う。

(2) 英語検定準1級合格については、学部基礎科目英語において最大4単位とみなし、「秀」の単位認定を行う。

(3) TOEIC公開テストスコア800点以上取得については、「TOEIC英語」において最大2単位とみなし、「秀」の単位認定を行う。

(4) TOEIC公開テストスコア730~799点取得については、「TOEIC英語」1単位とみなし、「秀」の単位認定を行う。

(5) 環境計量士試験合格については、「環境計量論」2単位とみなし、「秀」の単位認定

を行う。

- 2 前項に規定する学修の単位認定を受けようとする者は、それぞれの Semester 時の履修登録期間が始まる前に学生室に学修の成果を証する書類を添えて申請し、教授会の承認を得なければならない。

(入学前の既修得単位の認定)

- 第23条 学則第40条に規定する単位認定を受けようとする者は、所定の書式により第1年次の授業開始後2週間以内に学生室に申請しなければならない。

第8章 その他

(その他)

- 第24条 この細則に定めのない事項又はこの細則により難い特別の事情があると認められる事項については、教授会の議によるものとする。

附 則

- 1 この細則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 平成6年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この細則は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 平成10年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 平成12年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 平成13年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成18年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、別表の「生命科学英語演習」については、平成18年度以前に入学した者についても適用する。

附 則

- 1 この細則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成19年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、別表の「オーラルコミュニケーションⅢ」、「オーラルコミュニケーションⅣ」、「TOEIC英語Ⅰ」、「TOEIC英語Ⅱ」の規定は、同年3月31日において現に在学する者についても適用する。また、食品生命科学科の専門教育科目の必修科目「食品物理学」、「食品生命科学英語Ⅰ」、「食品生命科学英語Ⅱ」、栄養生命科学科の専門教育科目の選択科目「栄養生命科学英語」を平成19年度以前に入学した者については、選択科目として履修を可能とする。

附 則

- 1 この細則は、平成21年4月1日から施行する。

2 平成20年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Ⅱ(2)の規定中、(2)食品栄養科学部(食品生命科学科)の専門教育科目の必修科目「微生物学」、「免疫学」、(栄養生命科学科)の専門教育科目の必修科目「食品化学Ⅰ」及び「食品化学Ⅱ」、選択科目「ヒューマンゲノミクス」の規定は、同年3月31日において現に在学する者についても適用する。

3 平成20年4月1日より施行された、学則改正後の別表Ⅱ(2)の規定中、(2)食品栄養科学部(食品生命科学科)の専門教育科目の必修科目「食品生命科学実験Ⅰ」「食品生命科学実験Ⅱ」「食品生命科学実験Ⅲ」および「食品生命科学実験Ⅳ」の規定は、平成21年3月31日において現に在学する者について適用する。

附 則

1 この細則は、平成22年4月1日から施行する。

2 平成21年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、別表の「インターンシップ」、「海外研修英語」の規定は、平成19年4月1日以降入学し、平成22年3月31日において現に在学する者についても適用する。また、「食品技術者倫理」、「食品生命科学実験Ⅱ」、「公衆衛生学Ⅰ」、「環境衛生学実験」、「微生物学・食品衛生化学実験」「臨地実習(臨床栄養学)」、「臨地実習(公衆栄養学)」、「校外実習(給食の運営)」、「細胞工学」の規定は、平成20年4月1日以降入学し、平成22年3月31日において現に在学する者についても適用する。また、「栄養カウンセリング論」の規定は、平成21年4月1日以降入学し、平成22年3月31日において現に在学する者についても適用する。

附 則

1 この細則は、平成23年4月1日から施行する。

2 平成22年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、別表の「校外実習(給食の運営)」の規定は、平成20年4月1日以降入学し、平成23年3月31日において現に在学する者についても適用する。また、「公衆衛生学」、「公衆衛生学実験」、「給食経営管理実習」の規定は、平成21年4月1日以降入学し、平成23年3月31日において現に在学する者についても適用する。また、「食品物理学」、「調理科学」、「応用栄養学Ⅰ」、「応用栄養学Ⅱ」、「調理科学実験」の規定は、平成22年4月1日以降入学し、平成23年3月31日において現に在学する者についても適用する。

附 則

1 この細則は、平成24年4月1日から施行する。

2 平成23年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修細則第7条及び第15条の規定は、平成23年4月1日以降入学し、平成24年3月31日において現に在学する者についても適用する。また、第2条第2項及び第8条の規定は、平成20年4月1日以降入学し、平成24年3月31日において現に在学する者についても適用する。また別表Ⅱ(2)の規定中、(2)食品栄養科学部(食品生命科学科)の専門教育科目の必修科目「技術者倫理」の規定は、平成22年4月1日以降入学し、平成24年3月31日において現に在学する者についても適用する。

附 則

1 この細則は、平成26年4月1日から施行する。

2 平成25年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修細則第7条及び第15条の規定は、平成23年4月1日以降入学し、平成26年3月31日において現に在学する者についても適用する。また、第2条第2項及び第8条の規定は、平成20年4月1日以降入学し、平成21年3月31日において現に在学する者についても適用する。また別表改正後2の規定中、食品栄養科学部の学部基礎科目の「食

品・栄養・環境科学概論Ⅰ」、「食品・栄養・環境科学概論Ⅱ」及び「基礎統計学」の規定並びに食品生命科学科必修科目の「応用統計学」は、平成22年4月1日以降入学し、平成26年3月31日において現に在学する者についても適用する。

附 則

- 1 この細則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成27年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修細則第22条及び第22条の2の規定は、平成28年3月31日において現に在学する者についても適用する。

附 則

- 1 この細則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成28年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成29年7月1日から施行する。
- 2 平成29年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修細則第17条の規定のうち、新設選択科目の履修に関する記載は平成29年4月1日において現に在学する者についても適用する。

附 則

- 1 この細則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成29年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成30年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 平成31年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 令和2年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和3年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和4年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 令和5年度以前に入学した者については、改正後の履修細則第14条について、なお従前

の例による。

附 則

- 1 この細則は、令和7年4月1日から施行する。
- 2 令和6年度以前に入学した者については、この細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、令和8年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第16条の規定は、令和8年4月1日以降入学する者について適用し、同年3月31日において現に在学する者については、なお従前の例による。